

<付属資料>

(目 次)

・ 諮問書.....	1
・ 第5次市民自治推進会議 委員名簿.....	2
・ 第5次市民自治推進会議 開催状況.....	3
・ 各種調査等の実施状況.....	4
・ 第5次市民自治推進会議 会議資料.....	5
・ 札幌市自治基本条例.....	77
・ 札幌市市民自治推進会議規則.....	83

諮 問 書

札自治第 600 号

令和 5 年（2023 年） 8 月 18 日

第 5 次市民自治推進会議

座長 鈴木 克典 様

札幌市長 秋元 克広



札幌市自治基本条例に基づき、本市の市民参加の在り方について、下記の事項について諮問いたします。

記

1 諮問事項

よりの確な市民意向の把握や市民意見を市政へ反映するための手法などについて議論・検討を行い、市民参加による行政運営をよりの確・効果的に進める仕組みを提言すること

2 諮問理由

サイレントマジョリティや無関心層なども含めた市民意向の把握と市民意見を市政へ反映するための手法などの新たな視点からの検討を行うため

第5次市民自治推進会議 委員名簿

※ 学識経験者：令和5年(2023年)7月13日委嘱、市民委員：令和5年(2023年)11月2日委嘱

(座長以外五十音順、敬称略)

氏 名	所 属 等
すずき かつのり 鈴木 克典(座長)	北星学園大学経済学部 教授
おおむら りの 大村 莉乃	公募委員
かじい しょうこ 梶井 祥子	札幌大谷大学社会学部 教授
かたやま めぐみ 片山 めぐみ	札幌市立大学デザイン学部 准教授
の だ ゆう 野田 遊	同志社大学政策学部 教授
みかみ まさひろ 三上 真広	公募委員
やまざき みきね 山崎 幹根	北海道大学公共政策大学院 教授

(令和7年3月24日現在)

第5次市民自治推進会議 開催状況

回 数	開 催 日	議 題
第1回	令和5年8月18日(金)	・座長の選出および諮問 ・第5次市民自治推進会議について ・札幌市の市民参加に関する主な取組状況(市政への参加) ・よりの確な市民意向の把握や市民意見を市政に反映する仕組み
第2回	令和5年11月2日(木)	・市民参加の概念図 ・市民参加やニーズなどの現状の把握方法
第3回	令和6年2月1日(木)	・「仕組み」におけるツールの位置付けについて ・市政に関する具体的なテーマを用いた手法の検討について
第4回	令和6年3月27日(水)	・今後活用可能な市のツールについて ・成人の日行事を題材とした実験について
第5回	令和6年5月29日(水)	・成人の日行事をモデルとした実験のねらいについて ・現状の市民参加の手法について
第6回	令和6年8月7日(水)	・成人の日行事に関するアンケート調査結果の概要等について ・成人の日行事のあり方に関する議論の方針等について
第7回	令和6年9月26日(木)	・未来の成人式を考える市民会議の内容(案)について ・新たな市民参加手法などの運用ルール of 検討について
第8回	令和6年12月3日(火)	・未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について ・第2回未来の成人式を考えるアンケートの実施について ・(仮称)情報共有と市民参加の推進のためのガイドラインについて
第9回	令和7年2月3日(月)	・第2回未来の成人式を考えるアンケート調査結果について ・これまでの議論を踏まえた仕組みの検討について
第10回	令和7年3月24日(月)	・新たな市民参加の仕組みに係る答申案について

各種調査等の実施状況

1 未来の成人式を考えるアンケート調査(第1回)

実施期間	令和6年5月22日～6月14日
調査対象	①19歳の市民3,000人(令和7年1月開催の成人式の対象となる市民を無作為抽出) ②市内大学生(北海道大学、札幌大谷大学、札幌市立大学、札幌北星大学) ③札幌市公式 LINE、札幌市広報部 X、札幌広域圏スマートアプリの登録者、市公式HPを見た方
有効回答数	6,031件
調査内容	成人の日行事(成人式)に関する意識調査
URL	https://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/sanka.html

2 未来の成人式を考える市民会議

実施日	令和6年10月27日(第1回)、11月4日(第2回)
参加人数	計82名
内容	無作為抽出で選ばれた市民が、市や成人の日行事に携わる地域の方からの現状や課題に関する情報提供を受け、論点について議論
URL	https://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/sanka/shiminkaigi.html

3 未来の成人式を考えるアンケート調査(第2回)

実施期間	令和6年12月23日～令和7年1月10日
調査対象	・19歳の市民3,000人(令和7年1月開催の成人式の対象となる市民を無作為抽出) ※第1回調査と同一の対象者に追加調査を実施
有効回答数	189件
調査内容	成人の日行事(成人式)に関する意識調査
URL	https://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/sanka/documents/2surveyreport.pdf

令和5年(2023年)8月18日
市民自治推進会議事務局
(市民自治推進室)

【資料1】第5次市民自治推進会議について

1 概要

市長からの「よりの確な市民意向の把握や市民意見を市政へ反映するための手法などについて議論・検討を行い、市民参加による行政運営をよりの確・効果的に進める仕組みを提言すること」との提言を受けて、同会議では、

①サイレントマジョリティや無関心層なども含めた市民意向の把握〔現状把握〕

②市民意見を市政へ反映するための手法〔市民参加〕

について議論をしていく予定。

今後は市民委員を2名公募するほか、市民を交えたワークショップなどを適宜開催するなど、どうしたら市政により多くの市民参加がなされ、市民参加によるよりの確・効果的な行政運営につながるのか市民目線で考えていく。

2 会議体について

委員7名(学識経験者5名+市民公募2名)で設置。

かじい しょうこ 梶井 祥子	札幌大谷大学社会学部 教授
かたやま 片山 めぐみ	札幌市立大学デザイン学部 准教授
すずき かつのり 鈴木 克典	北星学園大学経済学部 教授
の だ ゆう 野田 遊	同志社大学政策学部 教授
やまざき みきね 山崎 幹根	北海道大学公共政策大学院 教授

3 スケジュール(予定)

令和5年7月13日 第5次市民自治推進会議を設置

8月18日 第1回会議は諮問を受けて行う。

→市民委員の公募開始(10月中旬～下旬予定)

10月 第2回会議

12月 第3回会議

令和6年2月 第4回会議

令和6年度 第5回～第10回(6回程度)

令和7年5月 提言(報告書手交)

1-1 「市政への参加」の取組状況

○ パブリックコメント

単位:件	H30	R1	R2	R3	R4	※1
案件数	24	23	18	11	14	1
意見数	938	1,459	1,340	1,013	691	3,855
1案件当たりの意見数	39	63	74	92	49	3,855

※1 「丘珠空港の将来像」案件 ①空港周辺の128,000世帯を対象に直接配付、②空港周辺地域住民（9連町対象）との意見交換会、③オーブンハンハウス形式（説明パネル等の展示と併せて、職員が説明しながら意見を聴取する方法）での意見交換会などと併せてパブコメを実施。

○ キッズコメント

単位:件	H30	R1	R2	R3	R4	※2
案件数	2	3	1	1	1	1
意見数	719	1,780	157	34	17	1,301
1案件当たりの意見数	359	593	157	34	17	1,301

※2 「札幌市戦略ビジョン策定」案件

○ 市民アンケート（市民意識調査 20,000通（各5,000通×4回）発送）

回収率	H30	R1	R2	R3	R4
	46.0%	49.5%	56.8%	51.2%	47.5%

○ 市民アンケート（指標達成度調査 4,000通発送）

回収率	H30	R1	R2	R3	R4
	36.2%	35.2%	38.6%	40.3%	26.2%

1-2 「市政への参加（対話型）」の取組状況

○ ワークショップ

	H30	R1	R2	R3	R4
実施回数	63	64	25	34	36
参加人数	1,894	2,970	797	1,411	695
1回当たりの参加人数	30	46	31	41	19

○ 意見交換会

	H30	R1	R2	R3	R4
実施回数	207	137	55	128	95
参加人数	3,990	2,836	748	1,624	2,104
1回当たりの参加人数	19	20	13	12	22

○ 市民会議

	H30	R1	R2	R3	R4
実施回数	42	29	4	3	7
参加人数	779	531	52	23	79
1回当たりの参加人数	18	18	13	7	11

○ シンポジウムやパネルディスカッション等

	H30	R1	R2	R3	R4
実施回数	97	104	37	38	70
参加人数	3,470	5,966	598	770	1,075
1回当たりの参加人数	35	57	16	20	15

2 参加の呼びかけ手法と参加率の関係

札幌市で実施した「市政への参加」の取組7事例における参加率など

事例	参加形式	参加呼びかけ →実際の参加人数	参加率	抽出 手法
曲長の都市計画変更	説明・意見交換会	50人→5人	10.0%	地域
琴似・栄町通の都市計画変更	説明・意見交換会	47人→3人	6.3%	地域
東北通の都市計画変更	説明・意見交換会	84人→4人	4.7%	地域
真駒内駅前地区まちづくり	オーブンハンハウス	10,333世帯→400人	3.8%	地域
もみじ台地域まちづくり	オーブンハンハウス	6,503世帯→160人	2.4%	地域
R4市民参加について	ワークショップ	2,000人→35人	1.7%	全市
R3市民参加について	ワークショップ	2,000人→26人	1.3%	全市

3 情報共有

○ 出前講座

	H30	R1	R2	R3	R4
実施回数	795	699	189	233	433
参加人数	39,904	33,851	701	13,052	22,989
1回当たりの参加人数	50	48	3	56	53

○ 市公式LINE

	R1	R2	R3	R4
アカウント数	2	4	7	8
友達登録数	-	12,249	131,824	166,177
1アカウント当たりの友達登録数	-	3,062	18,832	20,772

○ 市公式Youtube

	R1	R2	R3	R4
動画投稿数	1,564	997	678	676
チャンネル登録者数	5,995	9,331	11,401	13,665
全動画の再生回数	3,410千回	5,527千回	9,537千回	16,207千回

○ 市公式Twitterアカウント数

R114→R427

○ 市公式Instagramアカウント数

R16→R417

6

【資料3】よりの確な市民意向の把握や市民意見を市政に反映する仕組み（たたき台）

令和5年（2023年）8月18日
市民自治推進会議事務局（市民自治推進室）

2 施策や各事業に対する現状の調査・分析と現状に適した市民参加手法の展開

市が行う様々な事業等に対する市民の認識の現状について、横軸を理解や関心の度合い、縦軸を意見や意向表明の度合いと仮定する。

本来、各層（第1～4象限：①～④）に適した市民参加手法は異なると考えられるが、現状市民認識の把握は行っておらず、市民参加手法の使い分けを行っているわけではない。

例えば、進めようとする事業等について、市民認識やニーズなどをできるだけ正確に把握して、最適な市民参加手法を用いるなどすることで、より多くの市民参加がなされ、市民参加による的確・効果的な行政運営につながるのではないかと。

1 市民ワークショップにおける市民の意見

去る2月25日「市民自治を考える市民ワークショップ」を開催。

テーマを「札幌の市民参加を高めるために」と設定して各グループで議論いただいた。

議論の結果、参加者においては、

- 市民参加が多様であること、レベル感も違うこと
- 市民参加が活性化させるには「①情報が必要」「②機会や場が必要」「③メリットが必要」であること

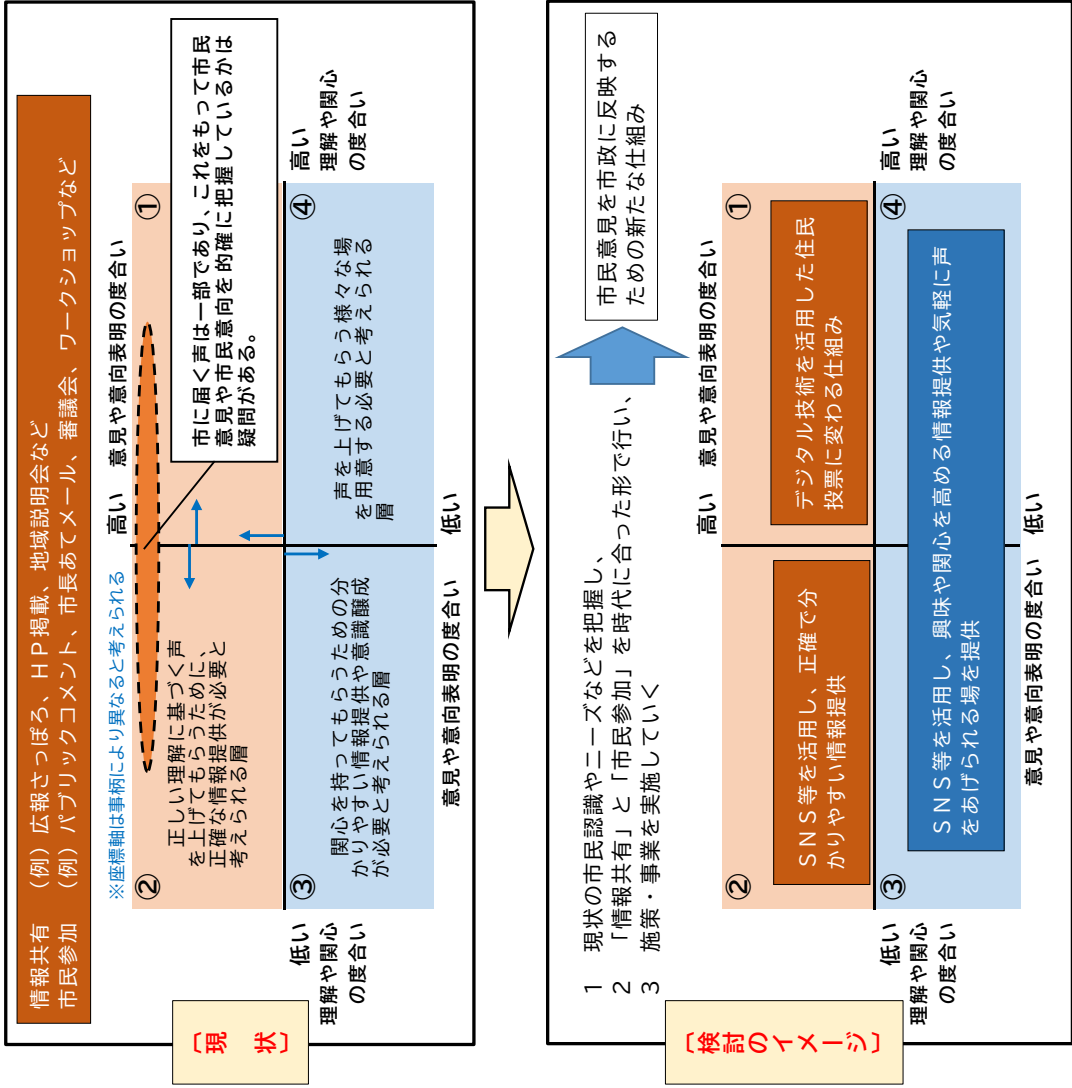
を認識。

その後、議論の結果を踏まえて「市民参加をもっと盛んにする手法」などのアイデアや考えを出しあった。（参加者の主な意見は以下表のとおり）

【参加者の主な意見】		
項目	課題や気づき	活性化する手法
①情報が必要	●参加手法（パブコメ等）を今回のワークショップ参加で初めて知った。 ●SNSだと情報収集が手軽で見やすいと思う。 ●市政情報は広報さっぽろで知る程度。	○紙以外にもデジタルを活用する。 ○SNS（インスタグラム、ライン）を活用する。 ○スマホで参加度合いが見られるアプリを開発
②機会や場が必要	●参加しやすいとよい。（参加のハードルが高い。機会があることも知らなかった。）	○市のアンケートをデジタル化 ○若い世代のワークショップ開催
③メリットが必要	●参加にメリットが感じられないほか手軽さがない。	○参加で特典ポイントを付与 ○参加とマイナパンカードを連携

市民参加を高めるための主な意見の中で共通するキーワードは「手軽さ」や「ハードルの低さ」のほか、「SNS等のデジタルツールの活用」、「インセンティブなどのメリット」であった。

自治基本条例に基づく市民自治を推進する重要なポイントである「情報共有」と「市民参加」について、市民は時代に合った形を必要としている。



1.市民参加の概念図

情報共有のための情報提供の工夫

- 「手軽さ」や「SNS等のデジタルツールの活用」（市民W）
- 「エピソード情報」と「統計情報」を使い分けた提供（野田）
- 情報提供によりどう変わったかを観察・分析することが手掛かりとなる（鈴木）
- 「受け手」と「送り手」の課題認識や「送り手」のスキル向上（梶井）
- テーマごとの関心の高低を把握（梶井）
- 関心度や満足度を意識した提供（野田）
- 事前の信念（先入観）を考慮した提供（野田）

まちづくりへの参加の促進
今回の検討の範囲外

- 市民が活動・参加しやすい環境づくりや活動に対する支援（例：条例制定、加入促進支援や各種補助など）

まちづくりへの参加
今回の検討の範囲外

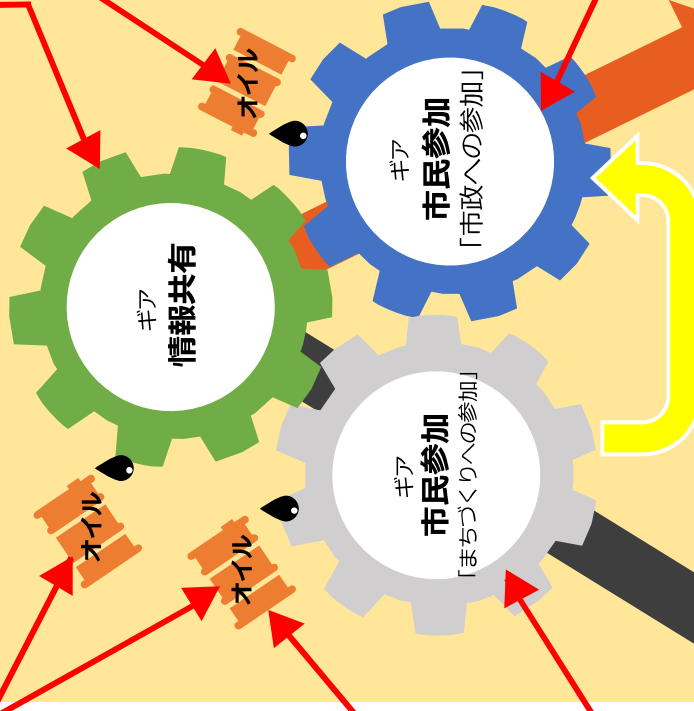
- 市民が自ら取り組んでいるまちづくり（例：町内会やNPO活動、各種ボランティア活動）

市民自ら取り組むまちづくり
今回の検討の範囲外

情報共有の時期（目指すべき状態）

- 1 企画・計画段階
- 2 決定後・実施段階
- 3 実施後の評価・改善段階

市民意見を市政に反映する仕組み（イメージ）



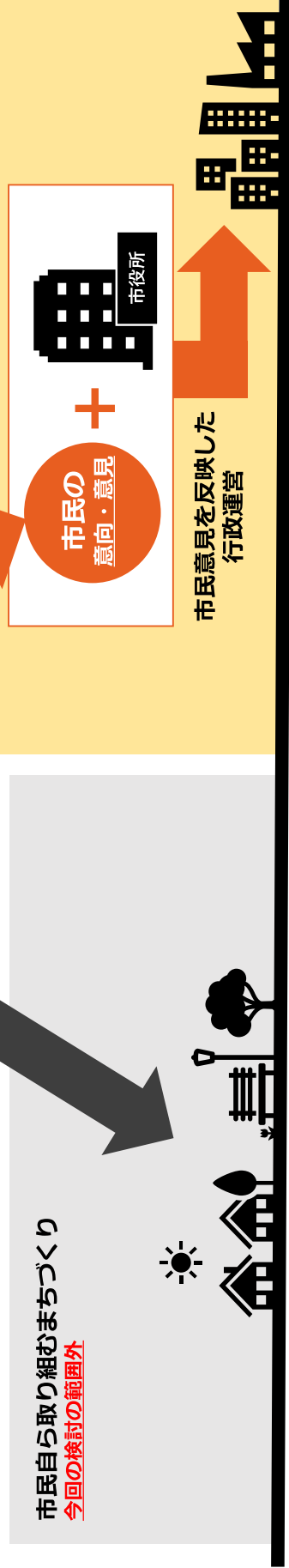
市民参加（市政への参加）の工夫

- 「手軽さ」や「ハードルの低さ」、「SNS等のデジタルツールの活用」、「インセンティブなどのメリット」など踏まえた手法（市民W）
- 参加して良かったものになっている手法（参加効果の見える化）（野田）
- 個別要望を超えた市全体のことを考えてくれた意見を出す市民を増やす（野田）
- ワークブックをどう引き出すか、どういうデザインならつい参加してしまう（片山）

市政への市民参加の時期

- 1 企画・計画段階
- 2 実施段階
- 3 評価・改善段階

- 市民参加は常に理想と現実のギャップが生じる傾向にある。（山崎）
- サイレントマジョリティはいくら働きかけてもサイレントマジョリティかもしれないことを押さえておく必要（山崎）
- 特に納税世代の30代～50代のサラリーマンの意向をどう吸い上げるか（野田）
- サイレントマジョリティの対象については、税の使い方や資源配分の在り方についての決定が最終的な議論と感じている（野田）
- 区ごとやコミュニティ単位で意見を収集して意見の相違を比較（梶井、片山）



2. 市民意向やニーズなどの現状の把握方法

現状と課題

現状は「水面上の氷山」だけしか見えない

- 現在、市の施策や事業に関し、パブリックコメントやアンケート、ワークショップ等を実施し、市民の意向や意見を把握しているが、これらにはサイレントマジョリティのものは含まれていない
- 一方、住民投票に代表される全数調査は実施に課題（制度、費用等）があることに加え、投票率が低ければ、多くのサイレント層の意向や意見を把握することができない

「水面下の見えない層」へのアプローチが必要

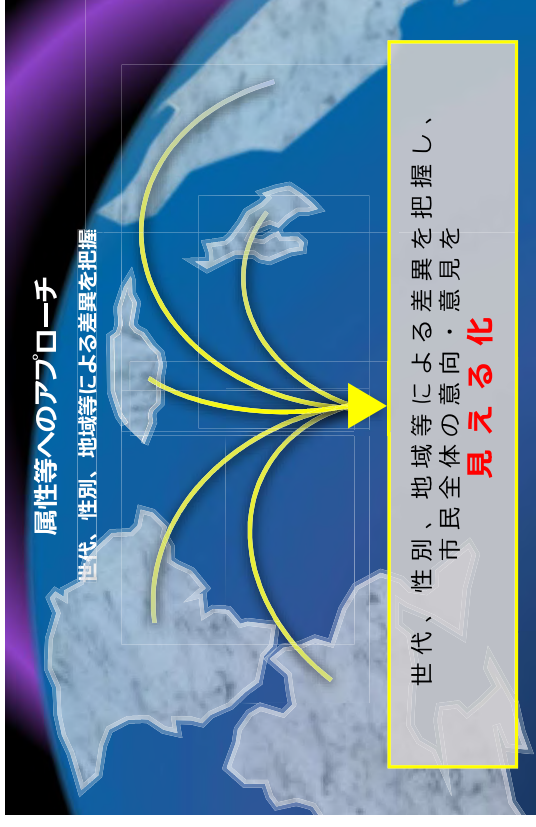
- 市民の意向・意見を把握するためには、水面下の見えない層（サイレントマジョリティ）へのアプローチが必要
- 「水面下の見えない層」をできる限り減らす仕組みを検討、実施することで、「氷山の大きさ」の見える化を目指す



全体像の把握

「氷山」は年代、地域等の属性ごとに存在している

- 市の施策や事業に関する市民の意向・意見は、世代、性別、地域等により傾向が異なる
- 「一つの氷山」を把握したことをもって、「氷山の全体像」を把握したことはならない
- 市の施策や事業に市民意向を的確に反映させるために、世代、性別、地域等による差異を把握する仕組みを検討、実施することで、「氷山の全体像」の見える化を目指す



市民意向・意見を
見える化するための工夫

- ① 現状のサイレントマジョリティ層が、意向・意見表明をしやすくなる（したくなる）工夫
- ② 世代、性別、地域ごとにサンプル調査を実施するなど、属性による差異を把握することができる工夫

別紙

- ①意向・意見表明をしやすくなる（したくなる） → 多くの人が持っているスマホを活用、質問も簡素に
②属性による差異を把握する → 性別・年代等に応じたサンプル数を確保



スマホで手軽に回答

- ・スマホでQRコードを読み込むことで簡単にサイトにアクセスできる
- ・回答数が少ないので、気軽に回答できる
- ・マイナンバーカードや個人QRコードの発行などで、電子住民投票も可能

質問は簡素に、回答しやすい事柄を

- ・サイレント層の掘り起こしのため、質問は簡素にする
- ・項目数は回答しなくなる範囲で設定
- ・調査対象の候補は、特別な知識や時間をかけて新たに勉強しなくても回答できる事柄

属性ごとの差異等を分析して市政へ反映

- ・調査結果について、年代や性別、地域の差異や意見の違いなどを分析
- ・市が施策や事業を行う際に、分析結果を反映し、市民全体が納得する市政運営を目指す

※ 上記のような方法を用いて、どのような施策や事業について市民意向を確認するのか

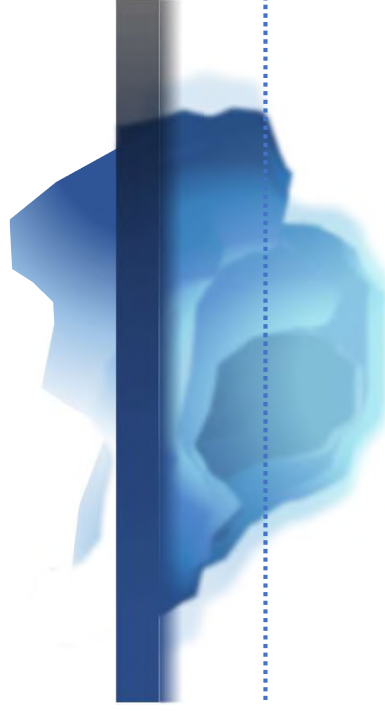
※ 市民意向を把握するタイミングはいつなのか

1. 「仕組み」におけるツールの位置付けについて

- ツールは、意見・意向表明のためのハードルを下げるなどの意味においては有効な手段のひとつである。
- 目的によっては、事前に必要な情報提供・情報共有を行った上でツールを利用する必要がある。

(1) ツールに関する各委員からのご意見

- 「意見・意向表明のためのハードルを下げる」「スピーディーに大まかな傾向をつかむ」という意味では、意向把握の有効な手段のひとつ
- 一方で、政策全体の理解を過度に単純化してしまうと、恣意的、作爲的にもなりかねないので留意が必要
- 最終的な物事を判断することを目的とした意向把握のためには、事前に施策等に関する必要な情報提供・情報共有を行った上でツールを利用すべき
- 市民のあらゆる層から多くの意見・意向を表明してもらうには、目的に応じて手法を吟味しなければならない
- 意見表明が「したくなる」工夫が必要
- サイレントマジョリティ層を分類し、それぞれ有効なアプローチ方法を考えることも必要ではないか



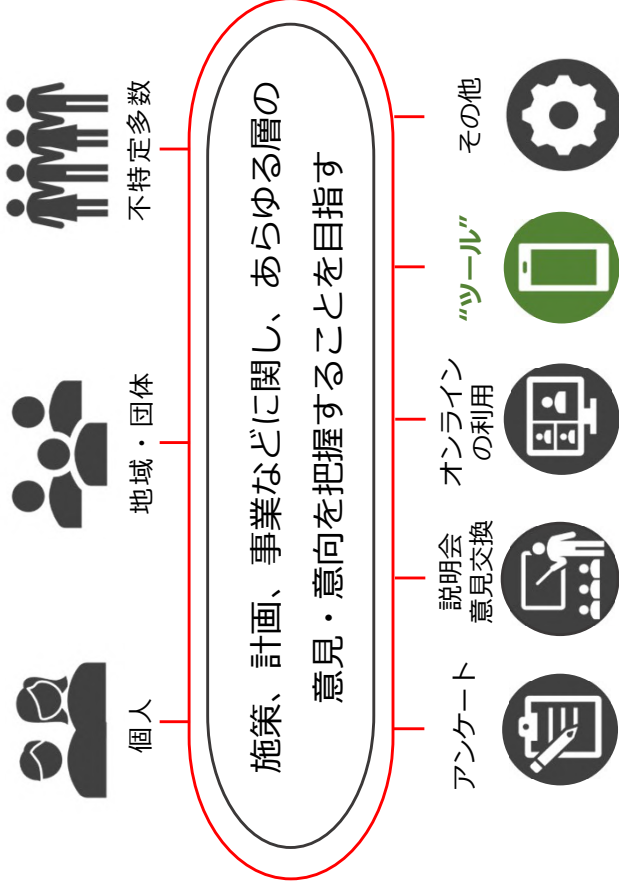
①意見はあるが
表明しない層？

②何らかの理由で
全く無関心な層？

(2) ツールの位置付け

ツールは有効な手段のひとつ

目的に合わせてさまざまな手法を組み合わせる



【今後活用が可能な市のツール】

● さっぽろ圈スマートアプリ



登録者数
約6千人

お知らせ配信やアンケート配信ができるアプリ。まちなかを歩いたり、動画を視聴してもらええるカギを使用し、ポイントが当たると、ポイントにも参加できる。

● 札幌市公式LINE



登録者数
約18万人

イベントなどのお知らせ情報、災害時など緊急の情報を配信。LINE上でのアンケートや、アンケートフォームのページへの誘導も可能。

2. 市政に関する具体的なテーマを用いた手法の検討について

- 意向把握から市民参加（議論）を経て着地点を見出すことを実際に行い、その過程から、今後の「仕組みづくり」の議論のヒントを得ることを目的とした実験を実施。

(1) 実験の概要と題材について

【実験の概要】

第3・4回会議	実験期間	第6回会議以降
内容の検討	各主体へ調査	結果の分析
① 題材の課題を共有 ② 手順の決定 ③ 工夫のアイディア	・約3か月程度 ・市が主体で実施 ・内容によって委員 のご協力も得る	① 課題の抽出 ② 仕組みづくりに生 かすべきポイント の検討

課題や改善点を抽出し、今後の議論のヒントを得る

【成人の日行事（題材）の概要】

- ・毎年「成人の日」前後に開催
- ・対象は20歳を迎える方（R6.1は17,909人）
- ・参加率は全市平均61.2%（最高は清田区81.4%）
- ・主催は各区成人式実施委員会（地域の方々に構成）
- ・市が各区に100万円の事業費を負担
- ・催事の内容は区によって異なる
- ・会場は実施委員会が確保

(2) 実験手法の検討

【“行政目線”の成人の日行事のイメージと課題】

	基本スタンス	現状のイメージや課題
新成人	・記念のイベントに地元の友人たちと参加して一緒に楽しみたい	・式典そのものよりもクラスの雰囲気を楽しんでいる
地域	・地元の若者の成人を地域として祝いたい	・高齢化や担い手が不足 ・企画・運営にかかる負担が大きい
行政	・新成人や地域の思いを尊重しながら開催を支援したい	・開催をサポートするために運営業務を一部担う必要 ・会場費等の費用負担が増大

【手 順 案】

1. アンケート調査
成人式に関する調査
着地点を見つける
【対象】
 - ・19歳（無作為）
 - ・大学生
 - ・実施委員会
2. 調査を基に議論
「調査→議論→着地点の見出し」の実験
結果から、仕組みづくりの議論に生かす
ポイントを見つける
3. 結果の分析



1. 今後活用可能な市のツールについて



さっぽろ圏スマートアプリ

【概要】

情報発信を始め「ヘルスケア」や「ゴミ出しカレンダー」など、様々な機能を使用できるスマホアプリ。
ダウンロード、利用登録をした方を対象としたアンケートが実施可能。
※android・iPhone対応

【メリット】

- ・モニター制度のように一定の登録者を確保しておくことができる。
- ・登録者の生年月日、性別、郵便番号、都道府県等の情報取得ができる。
- ・ポイント付与（※別途費用が必要）ができる。
- ・メールアドレス、SMS、アプリページで情報発信ができる。
- ・使用方法などについてチャットで質問ができる。
- ・新規開発の必要がない。

【デメリット】

- ・札幌市民に限定することはできない。
- ・アプリダウンロードの心理的ハードルがある（登録者数確保に課題）。
- ・アンケートの回答者が固定化される可能性がある。
- ・アンケートに特化したアプリではない。



札幌市公式LINE + スマート申請

【概要】

webのアンケートフォーム（下記スマート申請等で作成）、札幌市公式LINE等で情報発信を行うなどにより、アンケートが実施可能。

【メリット】

- ・友達登録者数18.7万人に情報発信ができる。
 - ・アプリダウンロードのハードルが低い。
 - ・既存ツールの組み合わせにより新規開発の必要がない（低廉）。
- ※令和6年1月にこの方法で「まちづくり戦略ビジョンの基本目標について」のアンケートを実施している。
- ・別途費用はかかるが、LINEと連携する多くのシステム、アプリと連携する開発が可能（拡張性がある）。

【デメリット】

- ・札幌市民に限定することはできない（別途費用はかかるが、マイナンバーカードによる公的個人認証を使えば限定可能）。
- ・事前にユーザー情報取得することはできない（アンケートで回答者の属性入力を求める必要がある）。
- ・継続的なアンケート、対象を絞ったアンケート等が難しい。



アンケートが配信されている場合、
こちらのアイコンから回答可能。



1. 今後活用可能な市のツールについて

市民アンケートシステムの改修等によるアンケートツールの開発

【システム改修の要件】

- ・ 住民データから対象者を抽出できること。
- ・ 抽出した対象者データから案内はがき等を作成できるようにすること。
- ・ 案内はがきにwebアンケートフォームのQRコードなどを印刷できること。
- ・ アンケート項目は2～10、選択式がメインで自由記載欄を設けられること。
- ・ 回答者の消込ができること。
- ・ セキュリティ対策に考慮すること。

【改修の参考見積】

- ・ 初期費用：69,000千円
- ・ 運用保守：450千円／月

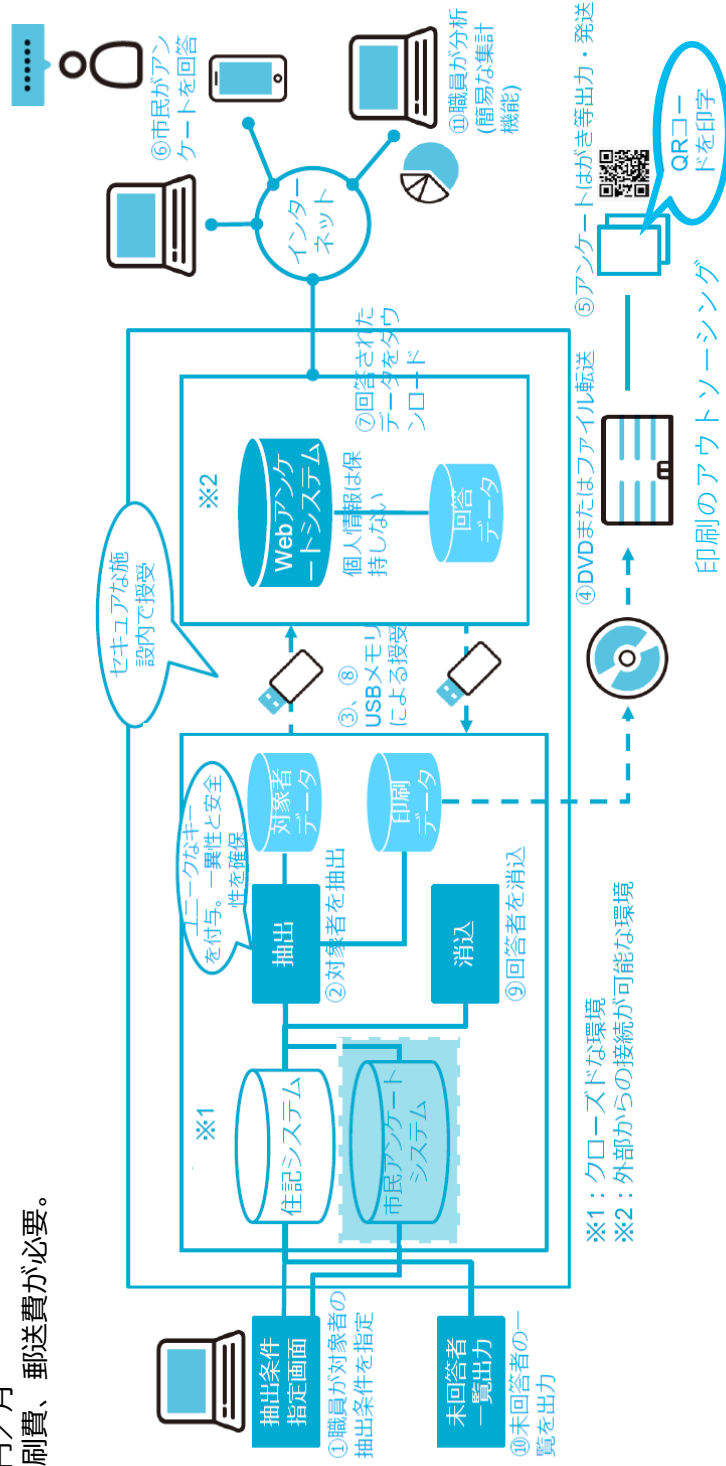
※別途、はがきの印刷費、郵送費が必要。

【メリット】

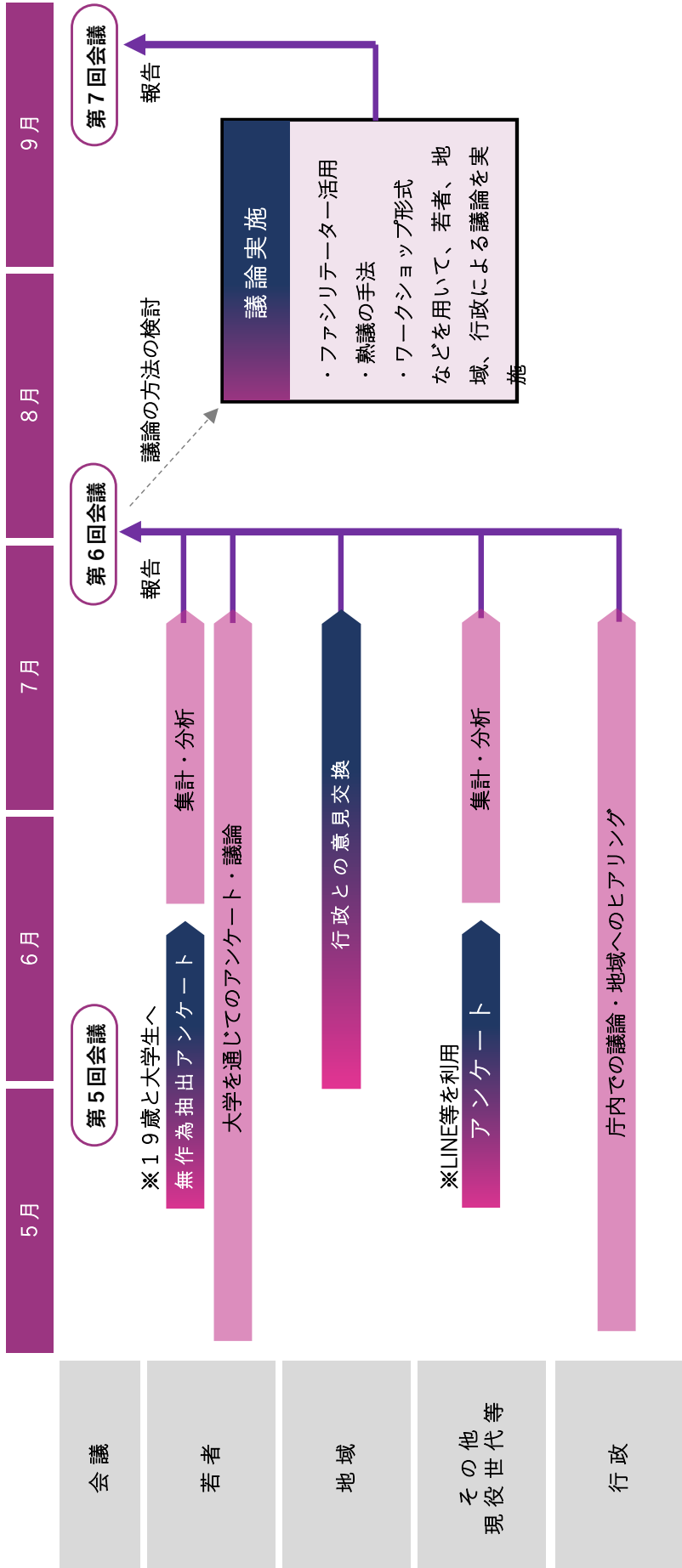
- ・ 住民登録がある札幌市民に限定することができる。
- ・ デジタル以外の回答にも対応が可能である。

【デメリット】

- ・ 改修費や運用保守費が高い（費用対効果の検証が必要）。



2. 成人の日行事を題材とした実験について



アンケート（第1回）及び意見交換

趣旨説明
・札幌市では、成人の日行事の在り方について検討を行っていく予定であり、その議論の参考とするためにアンケート調査を実施いたします。
・アンケートの調査結果を基に若者、地域、行政の三者による対話も実施する予定であり、その議論にも加わっていただける方も募ります。
・また、後日、アンケート結果と議論の結果をお知らせするとともに、その結果に対する追加の意識調査も行う予定です。その際もぜひご協力ください。

若者への質問事項

- 19歳の市民3千人と大学生へ調査（紙・オンライン併用）
- ◆お住まいの区、性別、職業、（※大学生の場合は年齢）
 - ①成人の日行事に参加したいか。（※参加したか、しなかったか）
 - ②参加したい又はしたくないと思う理由は何か。（※参加した、しなかった理由）
 - ③地域が主体となった実施していることをどう思うか。
 - ④地域から担い手不足等により運営が厳しいとの声があることをどう思うか。
 - ⑤地域からは協賛金を募るのが困難との声があるがどう思うか。
 - ⑥行政はこれ以上予算を増やすことができないことにどう思うか。
 - ⑦現状の成人式の式次第など流れや内容についての説明とそれに対する意見。
 - ⑧成人の日行事を持続可能な形に変えるために議論することにどう思うか。
 - ⑨議論に参加したいと思うか。
 - ⑩議論した結果に関心があるか。

地域への質問事項

- 行政から地域へ区毎に調査（意見交換）
- ①実施する側のやりがい。
 - ②実施するに当たって負担や障壁になっていることはあるか。
 - ③今後も地域が行事を実施していくとした場合に市へ要望することは。
 - ④これからも成人の日行事はあったほうが良いと思うか。

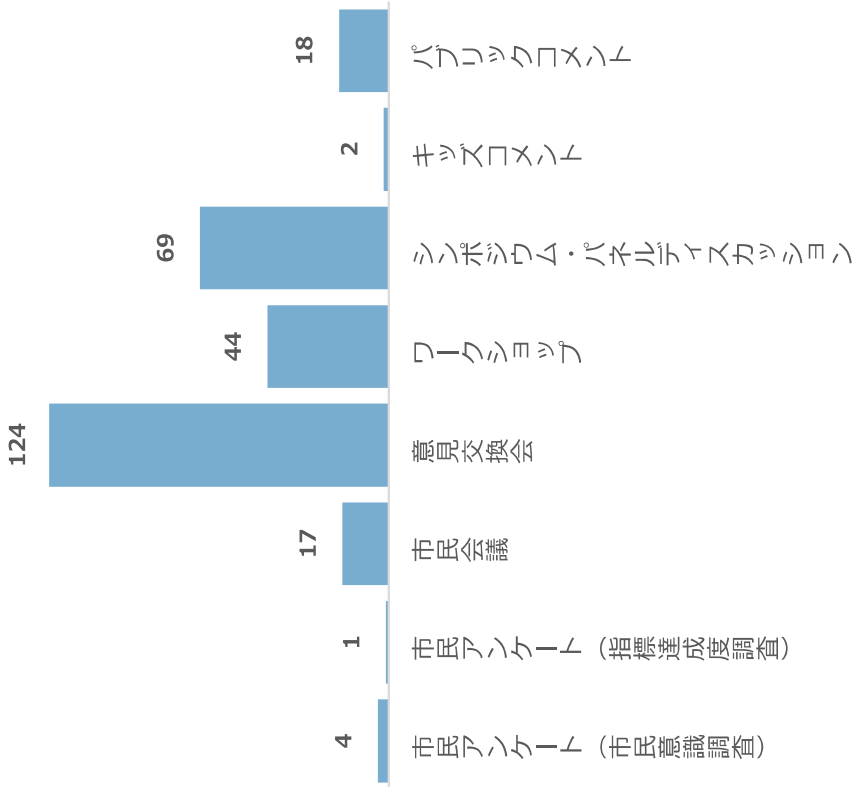
その他現役世代等への質問事項

- LINE等を利用して調査
- ◆お住まいの区、性別、職業、年齢
 - ①～⑧程度 若者と地域への質問事項の内容から組み合わせ

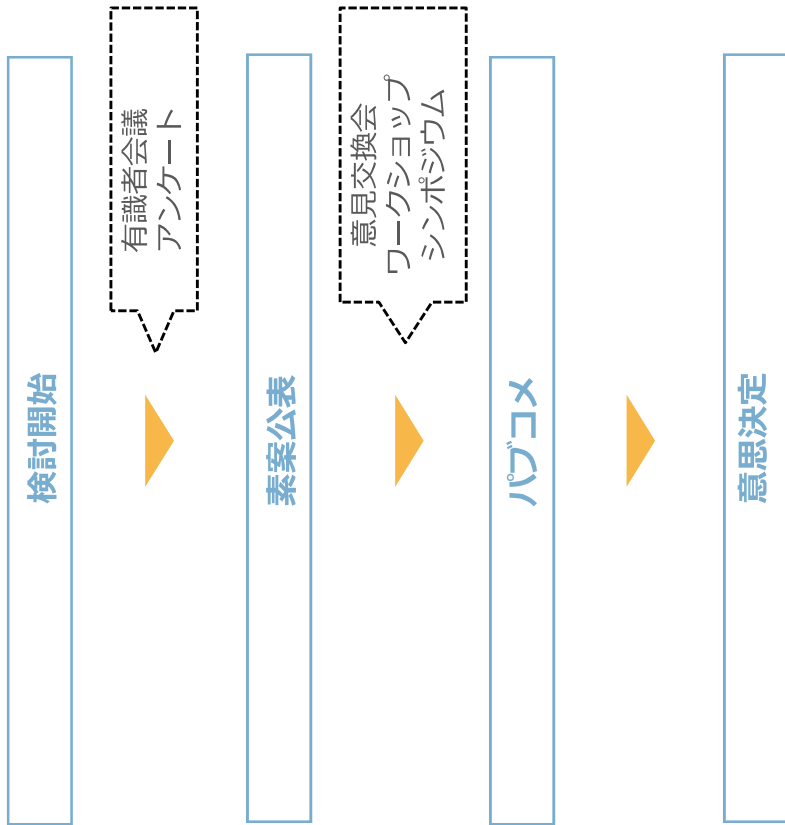
2. 現状の市民参加の手法について

- 市民参加の取組状況としては、意見交換会やシンポジウム・パネルディスカッションの実施件数が多く、**行政の提案に対し限られた市民が意見を述べる状況**
- 取組は、事案の性質、市民生活に与える影響、時間や費用、提案に対する市民の反応などを勘案し、**意思決定前に複数の手法から選択して併用することが基本**

市民参加の取組状況（H30～R4の年間実施件数の平均）



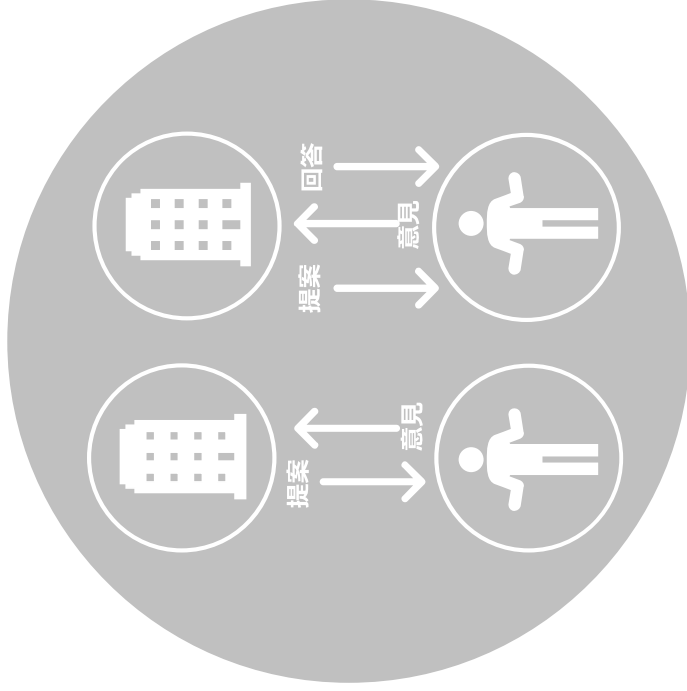
政策の企画・立案に係る一般的な進め方のイメージ



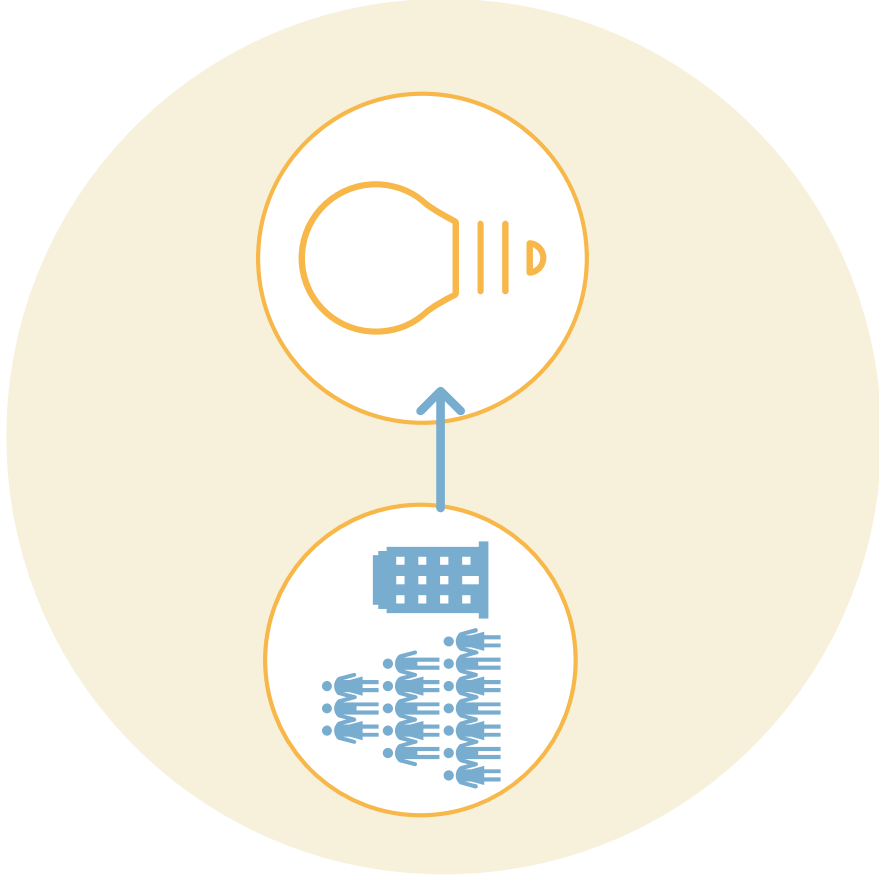
2. 現状の市民参加の手法について

- これからは意見を聞くだけでなく市民と問題点や課題を共有した上で**ともに考える時代へ**

行政の提案に対し、限られたタイミングで
限られた市民が意見を述べるに留まる



誰もが手軽に情報を得られ、
意見を述べることができる環境を整備し、
様々な市民と行政が一緒に議論する形に



(参考) 過去に札幌市が行った市政参加の促進に向けた試験的取組

市民による集中評価会議

実施時期

- ・平成19～25年度

開催目的

- ・自治基本条例第31条に規定している「本市の施策が条例の趣旨に沿って整備され、また運用されているかどうかを市民参加の上で評価する」仕組みづくりに向けた取組の一環。
- ・行政に声を届ける機会の少なかった市民の参加を促し、その声を市政に反映させる。

実施手法

- ・局区実施プラン計上事業のうち、「市民参加の促進」に取り組んだ事例を数例抽出、情報提供し、市民の視点から「市民の参加が具体的に促進されているか」等について評価。
- ・無作為抽出した18歳以上の市民2千人に参加を呼びかけ、応募のあった方から30人を選出。性別や年齢層のバランスを札幌市の構成と同様になるよう考慮。参加者には報酬を支払った。

会議の進め方

- ・事例ごとに事業担当課から説明を行った後、個人の印象で投票を行い、それについて各グループ(1グループ4～5人)内で意見交換をした後に、2回目の投票を行い、最後にグループとして意見をまとめ、発表を行う。期間は1～2日間。

事例説明 ▶ 投票(1回目) ▶ 話し合い ▶ 投票(2回目) ▶ まとめ発表

討論型世論調査

実施時期

- ・平成25年度に「雪とわたしたちの暮らし」をテーマに実施

開催目的

- ・参加者同士の討論や情報提供を通じて、参加者の意見がどのように変わるのかを探り、今後の雪対策に生かす。
- ・討論型世論調査そのものが市民参加の推進に有効かどうかを検証する。

実施手法

- ・通常の世論調査に加え、テーマについての資料や専門家からの十分な情報提供のもと行われる「討論フォーラム(小グループ討論+全体会議)」により、じっくりと検討した後、再度アンケート調査を行い、意見や態度の変化を見る。
- ・無作為抽出した18歳以上の市民3千人にアンケートを郵送し、討論会の参加申込書を同封。応募のあった方205名が参加し、討論会を実施。参加者には報酬を支払った。

会議の進め方

- ・テーマに関して、最初にアンケート調査を行った後、「小グループ討論(16～17名程度)+全体会議」を2セット実施し、最後にアンケート調査を行った。

世論調査 ▶ 討論会 ▶ アンケート ▶ 小グループ討論+全体会議×2 ▶ アンケート

評価の結果(H19年度)

- ・同じ対象を評価した行政評価委員会とほぼ同様の評価が導き出された。
- ・2回の投票に関しては、全体としてあまり意見の変化はみられなかった。

結果の活用(H19年度)

- ・市役所内での情報共有、各部署における取組促進、改善に活用。

参加者の意見(H19年度)

- ・参加について「大変満足」「満足」が多かった。
- ・今後の参加について、「ぜひ参加したい」「日程が合えば参加したい」が多かった。

調査の結果

- ・傾向としては、雪対策の満足度が上がったり、生活道路については満足度が上がったものの低い水準のままであったり、雪かきボランテアなどに協力できるという意見が増えるなどの変化が見られた。

結果の活用

- ・庁内での情報共有、今後の事業の検討に活用。

参加者の意見

- ・「参加してよかった」「また参加してみたい」「人の意見を聞いて新たに気づかされることがあった」といった意見が多かった。

(参考)「議論」の手法の素案

【参考資料】
令和6年(2024年)5月29日 第5回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局 (市民自治推進室)



目的

- ・市民全体のために何をどうすべきかという視点で、様々な層の市民が議論する意義、意識の醸成
- ・普段市政に参加する機会の少ない市民が、市政に参加する機会の拡大
- ・アンケート調査とは異なる「熟慮した市民意見」の収集
- ・有効性を検証し、市政の制度的な仕組みとしての導入可能性を探る

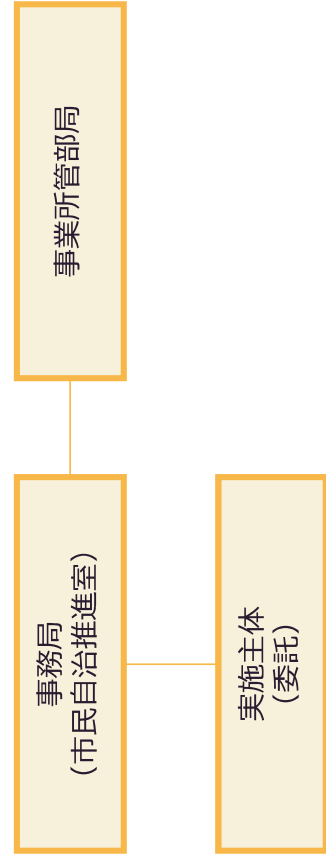
実施期間

- ・テーマに応じて設定

参加者

- ・住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民2千人にアンケート調査を行うとともに、議論への参加を呼びかける。

実施スキーム



実施手法

- ・応募のあった方から抽選して30人を選出。性別や年齢層のバランスを札幌市の構成と同様になるよう考慮。
- ・事前に会議資料を送付し、予備知識を得ていただく。
- ・発言しやすい環境づくりや公平な議論のためにファシリテーターを配置。

会議の進め方

- ・テーマに関し、有識者や関係者、担当課から説明を行った後、各グループ(1グループ4~5人)内で意見交換。
- ・意見交換後、全体の意見を結論としてまとめる。
- ・最後に事後アンケートを行う。

結果の活用

- ・結論の内容や参加者の意識の変化(事前アンケート、事後アンケート)について広く広報する。
- ・結論を受け、市として政策への反映や計画に盛り込むなど、成果を反映するとともに、その結果を公表・周知する。

調査区分ごとの回答者属性、回答数等(調査期間:令和6年5月22日～6月14日)

区分	回答者属性				回答数				回答率
	男	女	その他	合計	紙	Google フォーム	LINE	スマート 申請	
19歳(対象3,000人)	250	304	3	557	229	328	-	-	18.6%
大学生(対象約470人)	149	215	7	371	206	-	-	165	約79%
19歳以下	107	163	6	276	167	-	-	109	-
20歳以上	42	52	1	95	39	-	-	56	-
その他(オンライン調査)	1,798	3,244	61	5,103	-	-	4,736	367	-
19歳以下	78	145	7	230	-	-	195	35	-
20歳以上	1,720	3,099	54	4,873	-	-	4,541	332	-
合計	2,197	3,763	71	6,031	435	328	4,736	532	6,031

成人の日行事に関するアンケート調査結果の概要②

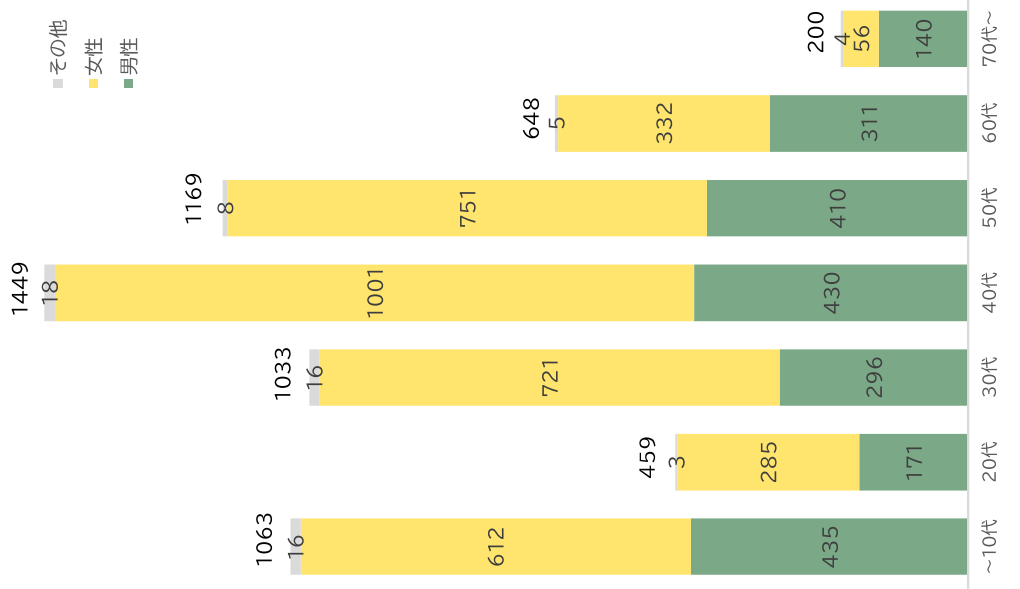
令和6年(2024年)8月7日 第6回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局 (市民自治推進室)

【資料1】

回答者の属性

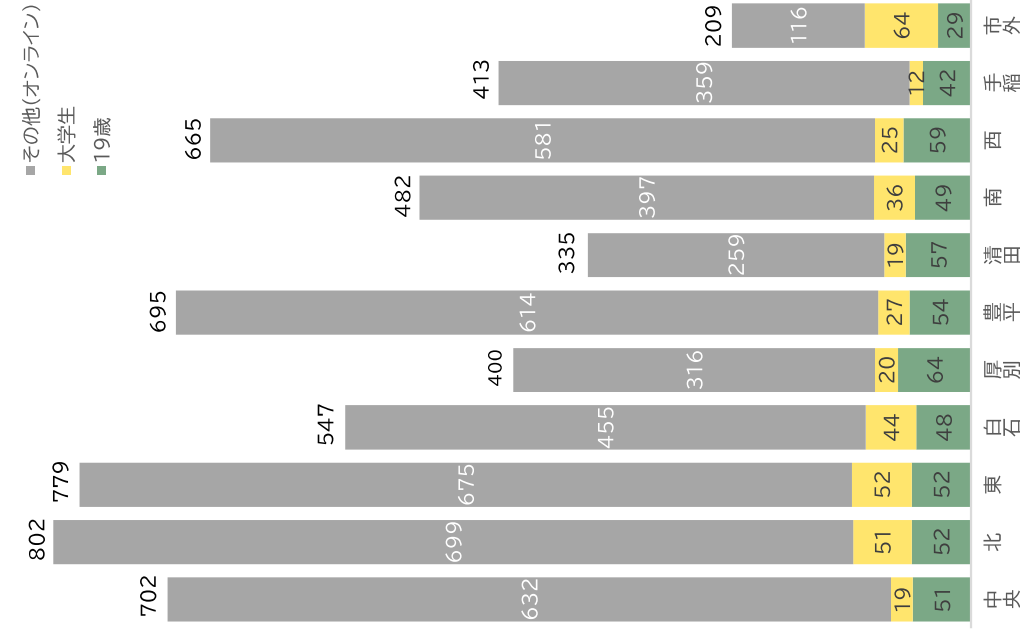
全回答者の年代

・10代、30～50代の回答を多く得られた



全回答者の居住地(不明除く)

・北区が最も多く、市内では清田区が最も少ない



全回答者の性別

・全ての調査区分において女性の割合が高い



成人の日行事に関するアンケート調査結果の概要③

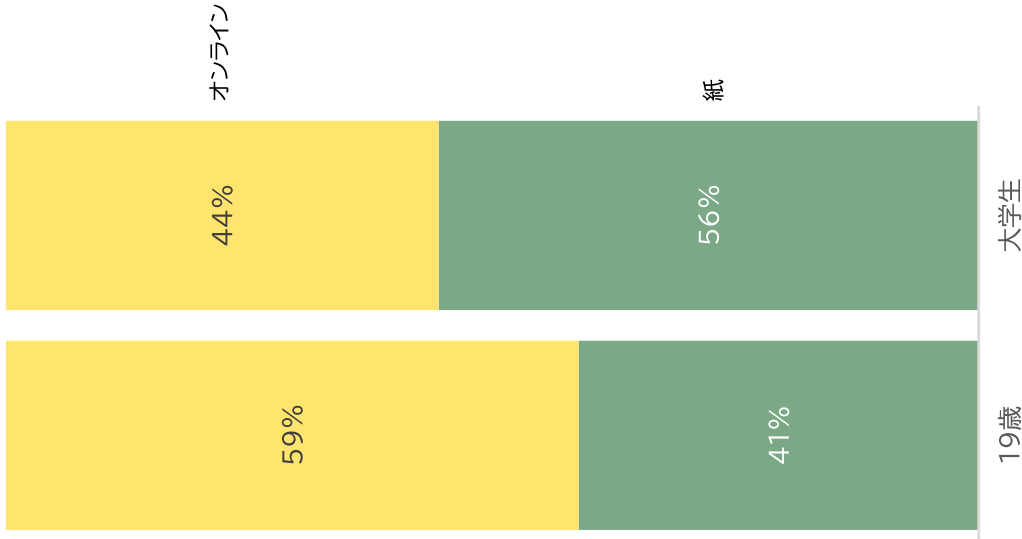
令和6年(2024年)8月7日 第6回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局 (市民自治推進室)

【資料1】

回答方法等

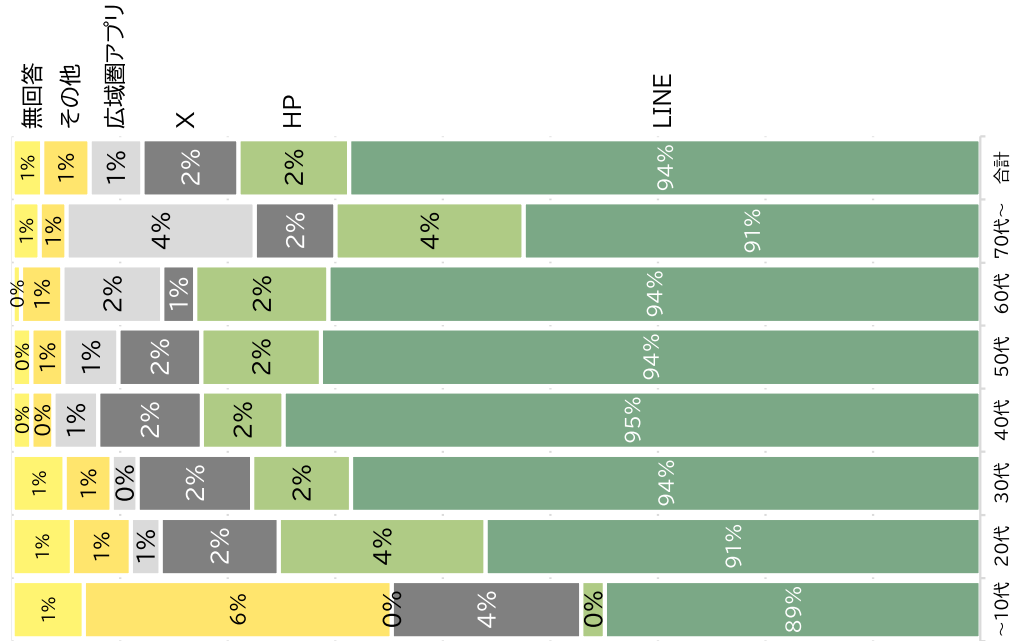
19歳・大学生の回答方法

- ・19歳はオンラインを選択する割合が高い
- ・大学生は授業で配布し紙の割合が高い



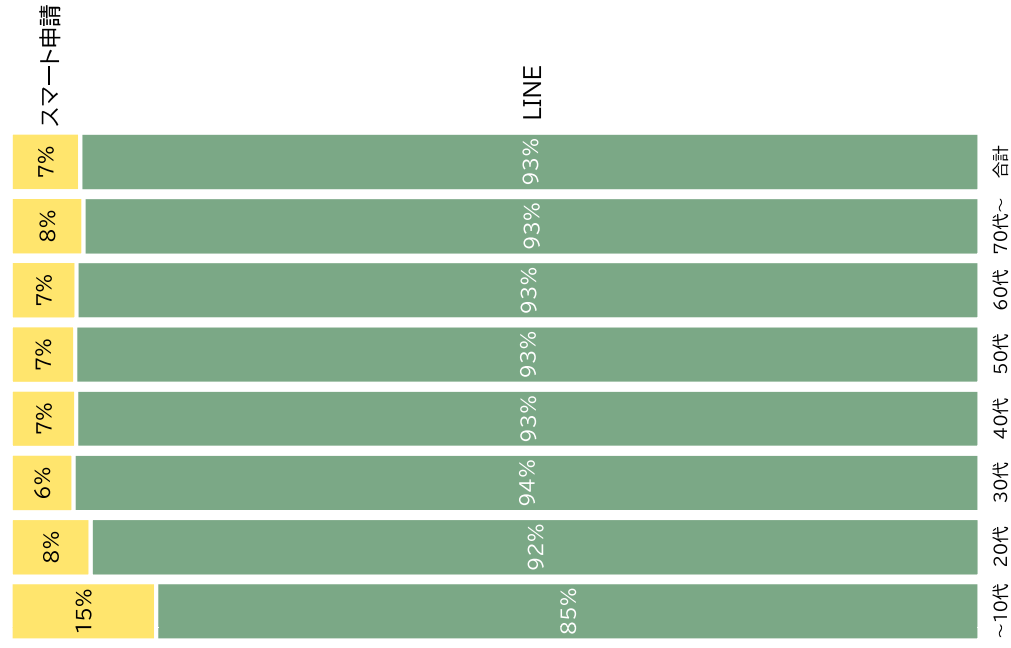
オンライン調査を知ったきっかけ

- ・9割はLINEがきっかけ
- ・10代は「その他」の意見が他世代より多い(親・家族からという記載が多い)



オンライン調査の回答方法

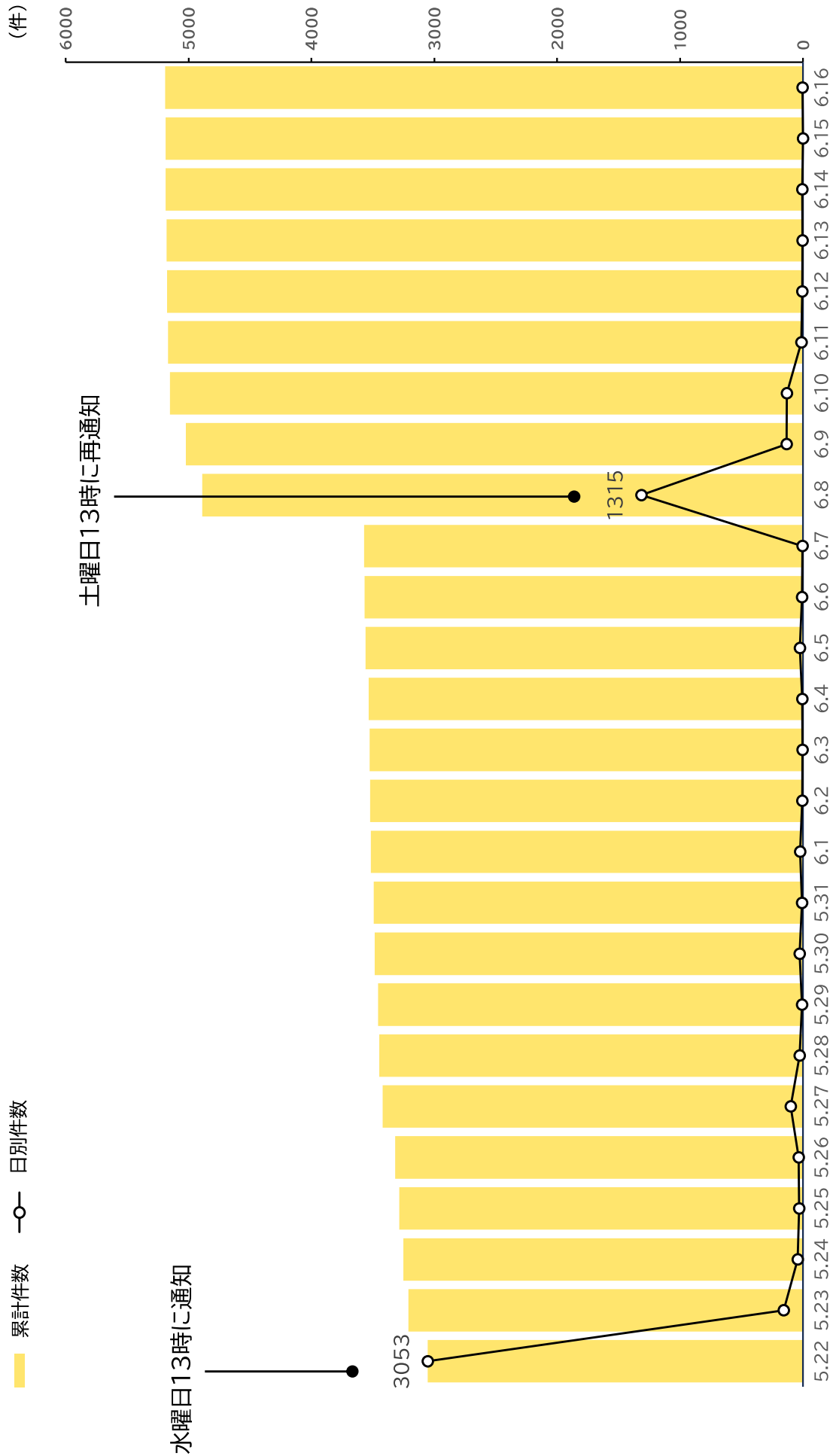
- ・9割はLINEから回答
- ・10代はスマート申請の割合が他世代より高い



成人の日行事に関するアンケート調査結果の概要④

その他(オンライン調査)日時集計

【資料1】
令和6年(2024年)8月7日 第6回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局(市民自治推進室)



成人の日行事に関するアンケート調査結果の概要⑤

Q アンケート調査に協力した理由

その他(オンライン調査)の回答

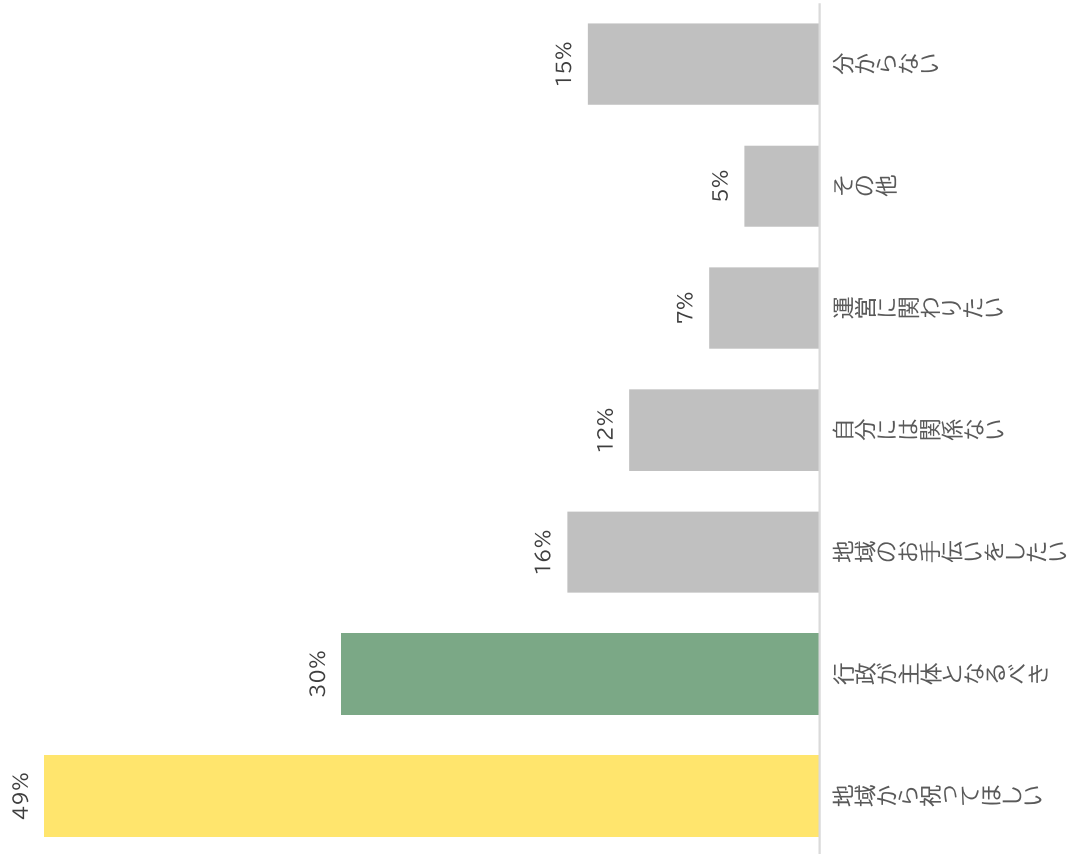
・アプリの通知に興味を持った方が最も多く、自分の意見を市に伝える機会がないと答えた方の割合も高い

理由	全体	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
アプリで通知があり、興味を持ったから	47.5%	32.6%	52.7%	57.0%	50.2%	48.4%	43.2%	31.5%
自分の意見を札幌市に伝える機会が普段はないから	24.9%	25.7%	23.6%	27.1%	25.9%	26.1%	27.2%	23.5%
回答にそれほど手間がかからないから	21.8%	12.2%	25.3%	27.4%	24.4%	20.8%	16.4%	18.5%
もっと良いイベントにしたいから	21.7%	25.7%	18.4%	21.7%	23.5%	23.9%	22.1%	26.5%
身近な話題であるから	17.0%	52.6%	10.2%	10.8%	28.2%	21.4%	6.0%	9.5%
自分にとって大事なイベントだから	13.8%	44.8%	25.3%	16.8%	13.4%	11.3%	11.9%	17.0%
自分の意見を参考にしてもらいたいと思ったから	13.1%	17.0%	9.9%	12.9%	13.7%	13.8%	16.7%	15.5%
札幌市からのアンケートに義務感を感じたから	11.4%	9.1%	10.7%	10.6%	11.2%	12.4%	14.8%	16.0%
その他	3.4%	2.6%	5.8%	3.6%	3.8%	2.7%	3.5%	3.0%

Q 地域が主体となって実施することが困難になる恐れがあることについて

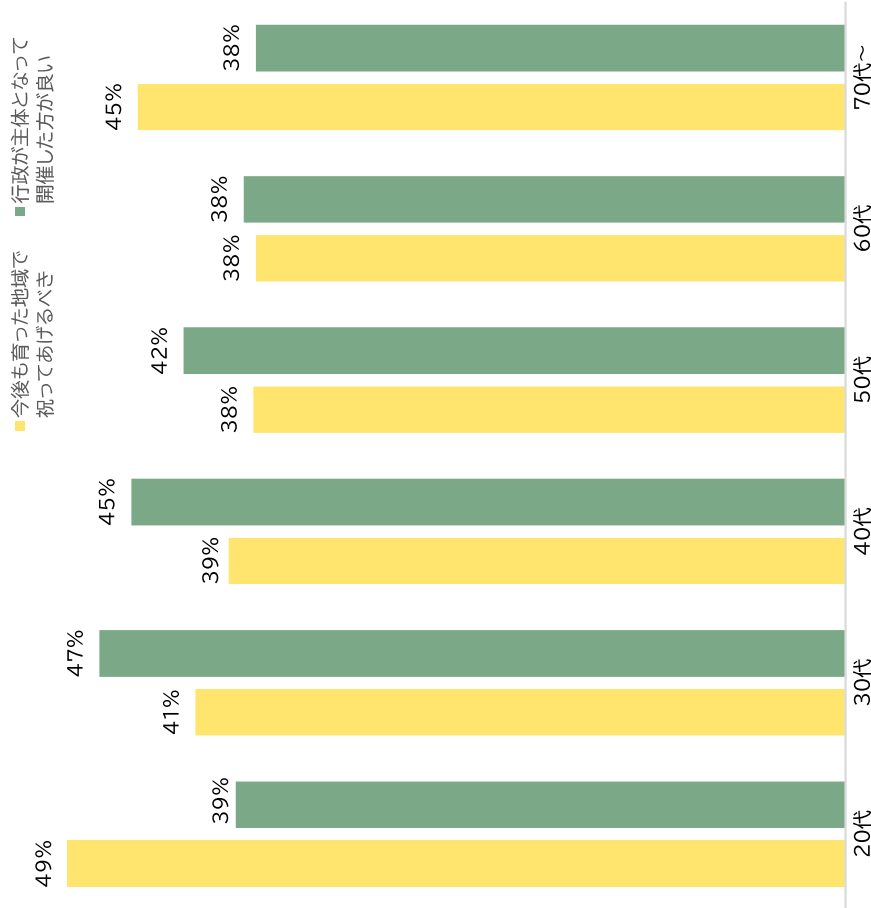
19歳以下の回答

・「地域から祝ってほしい」という意見が最も多い



20代以上の回答(地域と行政について)

・20代、70代は「地域で祝ってあげべき」という意見が多く、30～50代は「行政が主体となるべき」が多い



成人の日行事に関するアンケート調査結果の概要⑦

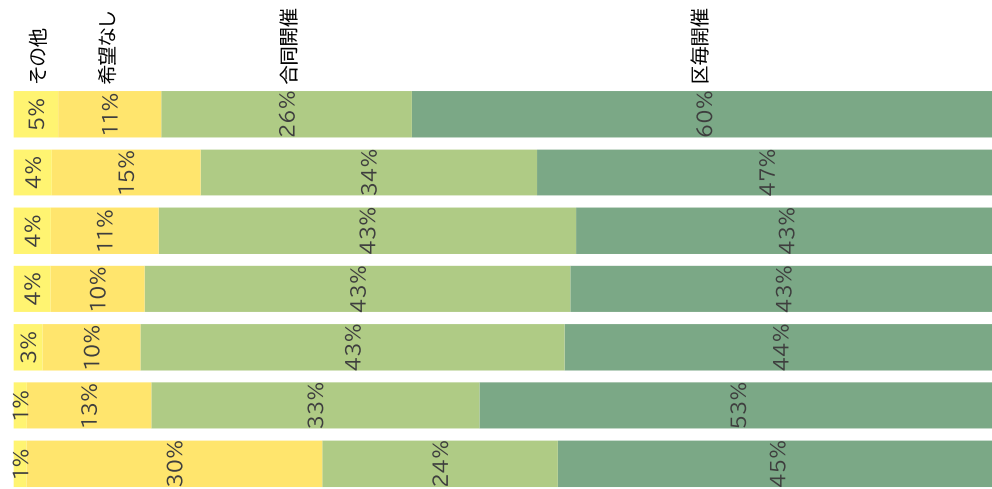
令和6年(2024年)8月7日 第6回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局 (市民自治推進室)

【資料1】

Q 今後の開催方法として希望するもの

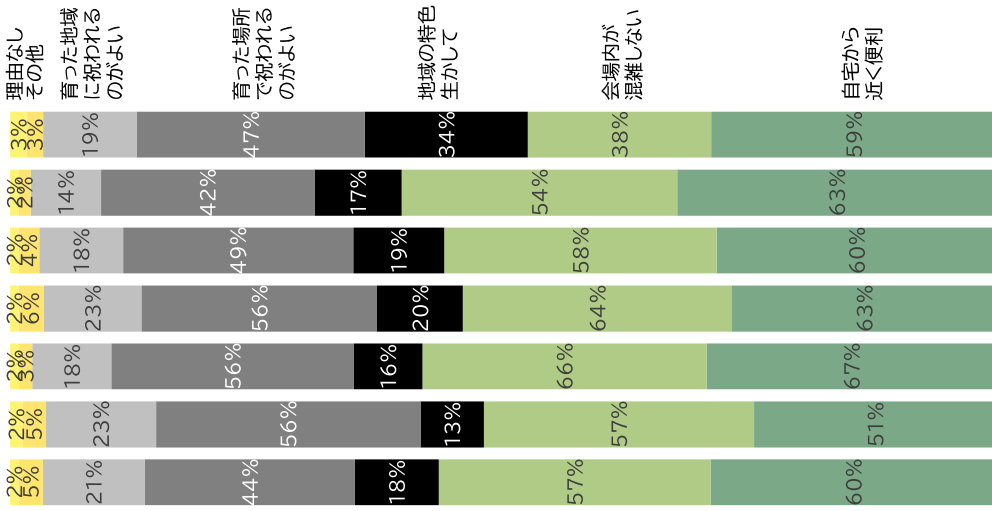
全世代の回答

- ・10～20代、70以上は区毎の意見が多い
- ・30～50代は区毎と合同が同程度



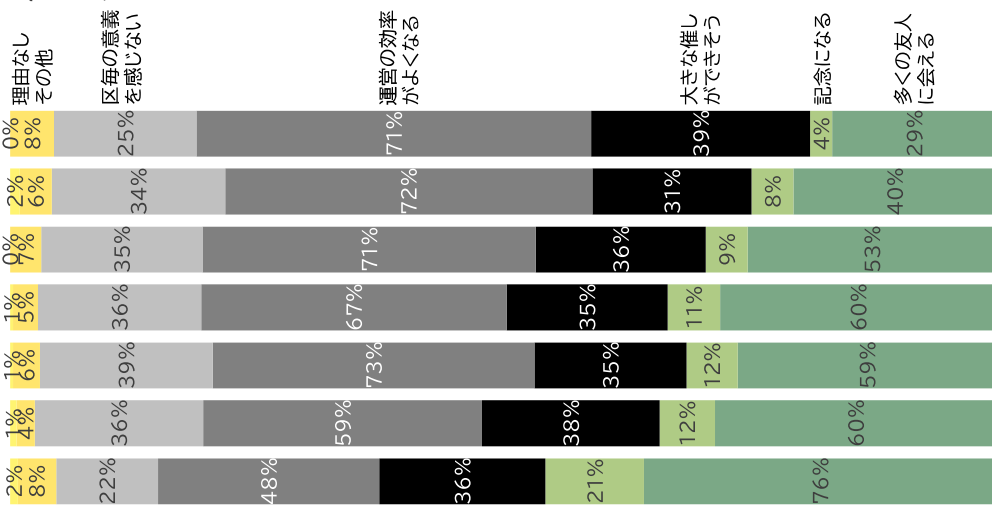
区毎を希望した理由

- ・「近くて便利」、「混雑しないから」が多い
- ・70以上は「地域の特色生かして」が多い



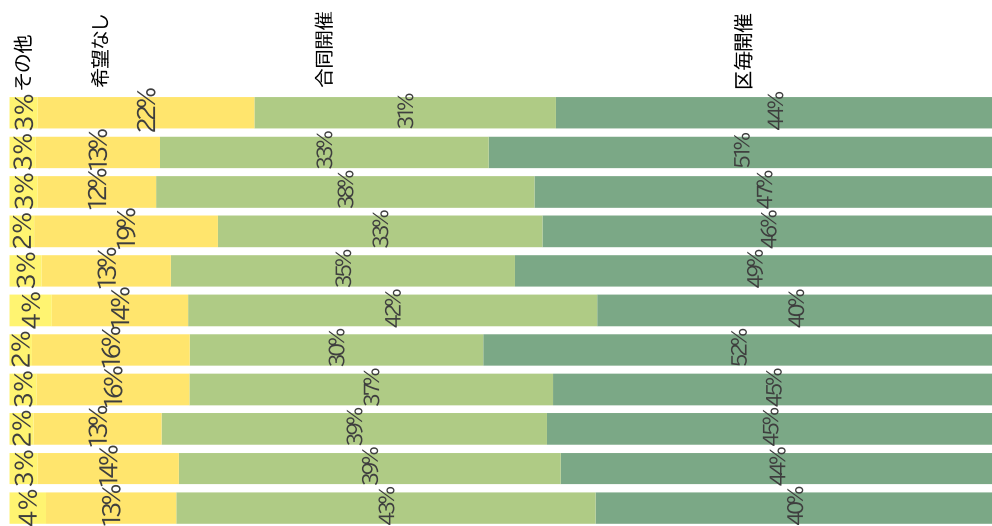
合同開催を希望した理由

- ・若い方は友人に会うことや記念を重視
- ・年齢が高くなると運営の効率を重視



居住区別の回答

- ・中央、豊平は合同開催の意見が多い
- ・厚別、清田、手稲は区毎の意見が多い

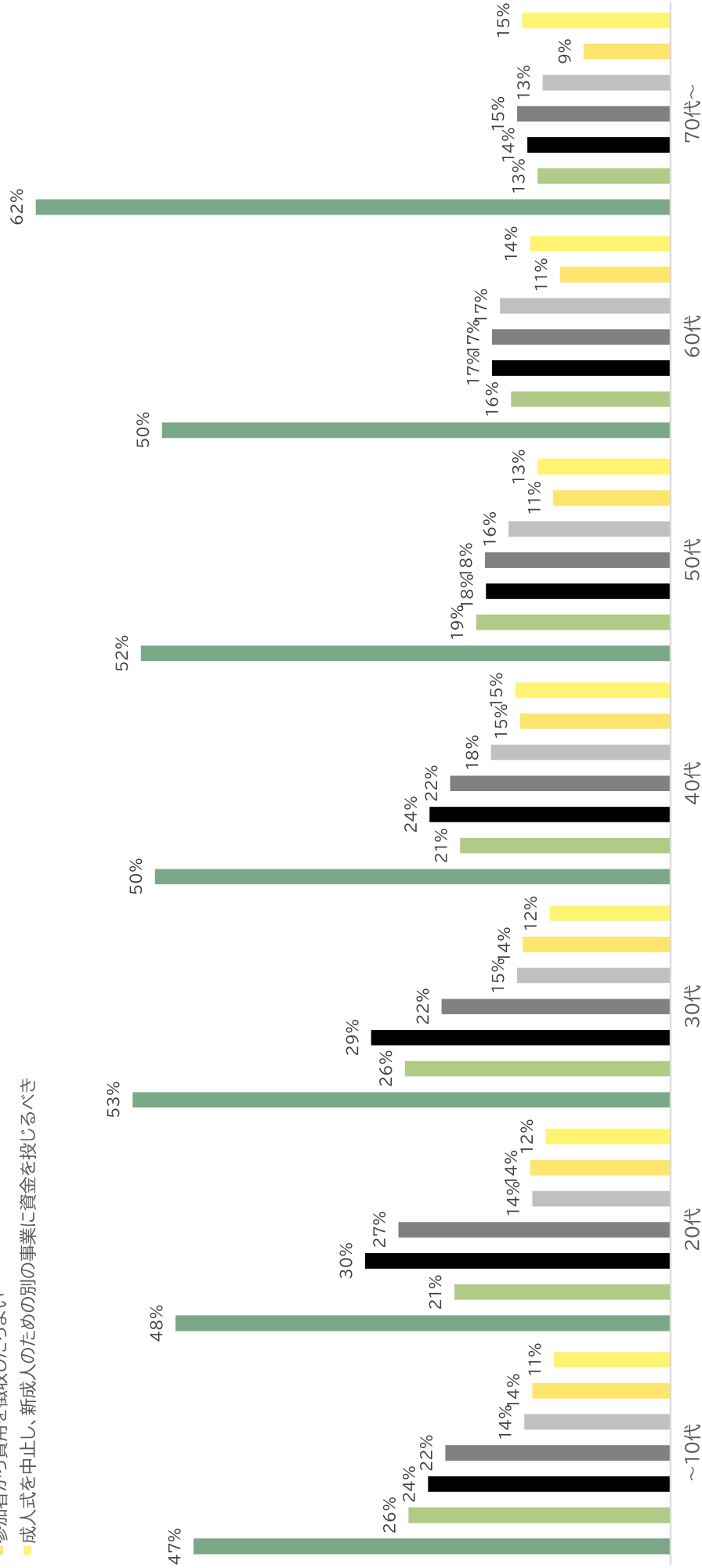


成人の日行事に関するアンケート調査結果の概要⑧

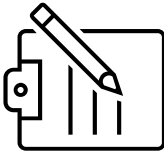
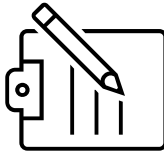
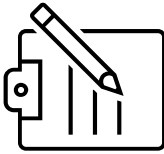
Q 運営資金の確保をどのように行うのが良いと思うか

- ・若い方はクラウドファンディングなどの大規模な寄付を呼びかける意見や地元企業が寄付を行うべきという意見が多い
- ・年齢が高くなると行政からの補助を増やすべきという意見が減少

- 限られた運営資金の中でできることを実施するべき
- 大規模な寄付の呼びかけなどで資金を募ればよい
- 地元企業がもっと寄付を行えばよい
- 行政からの補助を増やすべき
- 財政が厳しいなら、成人式を実施する必要はない
- 参加者から費用を徴収したらよい
- 成人式を中止し、新成人のための別の事業に資金を投じるべき



令和6年5月～7月に、各区の成人の日行事実施委員会の構成団体(計14団体)へ課題などのヒアリングを実施

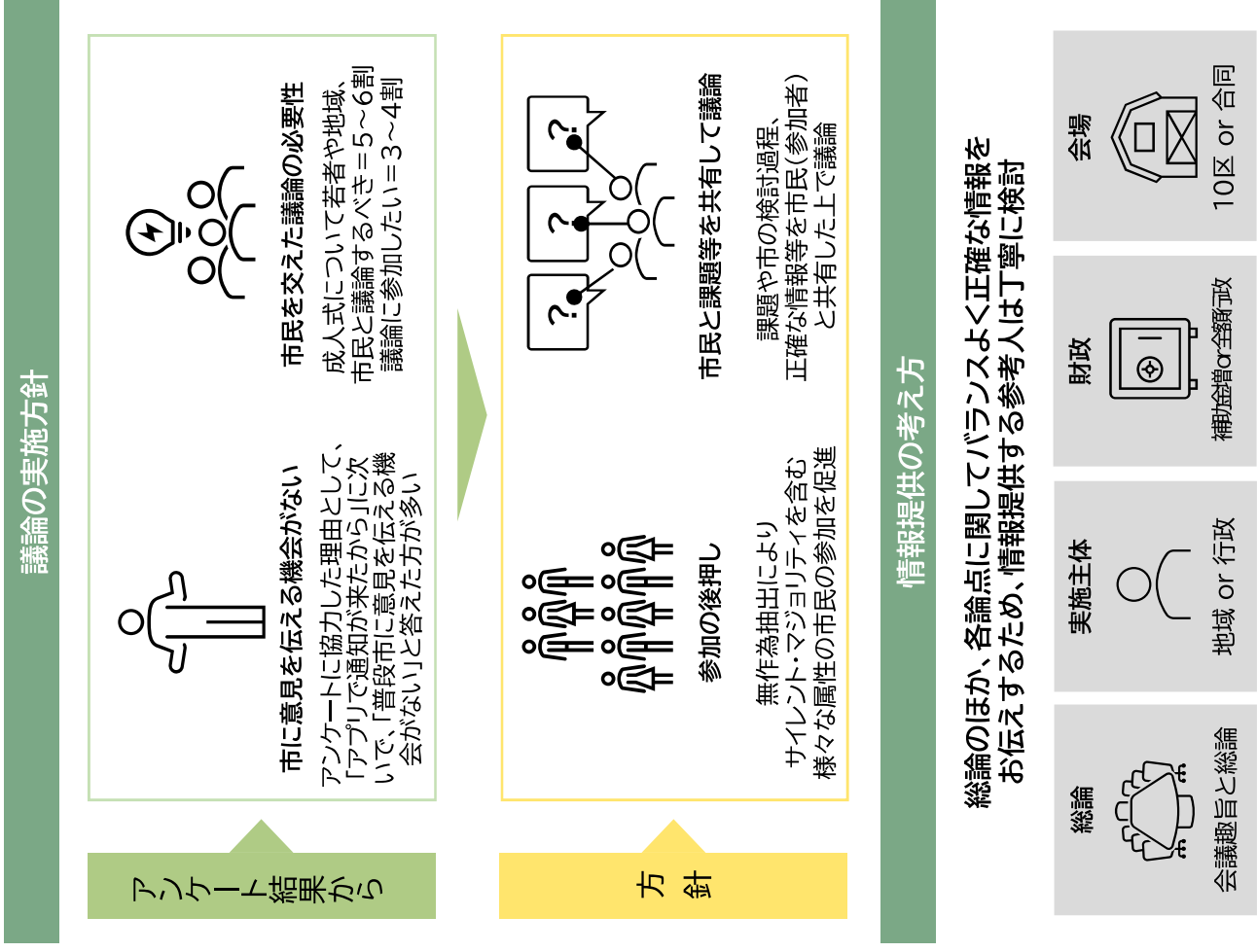
質問項目	主な意見	その他の意見
 成人式の必要性・やりがい	・人生の節目として、成人の日行事は必要。 ・参加者が楽しそうにしている姿を見るのは喜び(親にとっても楽しみだろう)。 ・地域として祝ってあげたい。	・全市で5割～6割という出席率はそれほど高くないと思うので、このまま継続するかどうか検討すべき時期。 ・なぜ地域主体で祝っているのか疑問を持つ方もいる。 ・行政が主催することになると、地域で青少年を見守ってきたという意識が薄れていくのではないか。 ・伝統として引き継がれてきたものを引き継いでいく。 ・地域での開催は苦労もあるが、手作り感があるってよい。 ・市外に出た方が故郷に戻ってくるきっかけになる。
 現状の課題	・企業から協賛金を集めているが、将来的に協賛を継続してもらえないかは不透明。 ・昨今の物価高騰の影響などもあり、人件費や会場代も増えている。その分、補助金額にも反映してもらいたいのだが、増額してもらえない。 ・従事者が高齢化しており、丸一日従事することが体力的に難しい面がある。若い方の成り手もない状況。	・記念品を配布したい(もっと記念に残るものにしたい)。 ・地域が企業に協賛金をお願いして回ることが疑問。 ・参加者に喜んでもらえる催しが分らない。 ・区によって催しが違うことは不公平ではないか。 ・補助金額は基本的に各区一律になっているが、実情に合わせてほしい。 ・従事者の配置や動きなどに工夫の余地がある。 ・会場によって負担感が違う。 ・課題は特にならない(負担は感じていない)。
 市への要望	・余裕を持った運営を行うために、市からの補助金を増やしてほしい。	・将来を担う札幌市の子どもたちを祝うという観点から行政が主催すべき(地域が手伝うことは可能という意見もあり)。 ・行政が職員を動員すべき。 ・行政が式にかかる予算を全額賄うべき。 ・クラウドファンディングを活用してはどうか。 ・札幌ドームで合同開催することを検討してほしい(遠くになって不便という意見もあり)。

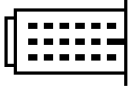
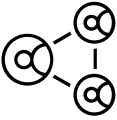
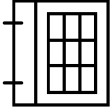
成人の曰行事のあり方に関する論点の整理

令和6年(2024年)8月7日 第6回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局（市民自治推進室）

【資料1】

地域のスタンス (ヒアリングを行った団体の主な意見から)		19歳以下のスタンス (アンケート調査結果から)	20歳以上のスタンス (アンケート調査結果から)
実施主体	地域で祝いたい	地域に祝ってほしい	地域と行政が同程度
財政	補助金増額を希望	①限られた資金でできることを ②大規模な寄付呼びかけ ③補助金増額 ④地元企業の寄付	①限られた資金でできることを ②～④ 同程度 補助金増額 大規模な寄付呼びかけ 地元企業からの寄付
会場	各区開催を希望	各区開催を希望	各区と合同が同程度



議論の開催概要(案)	
日時	 令和6年10月27日(日)、11月4日(月・祝) ・9時30分～17時00分(昼休憩1時間)
会場	 札幌グランドホテル クリスタルホール ・北1条西4丁目地下1階(地下歩行空間直結) ・地下鉄札幌駅・大通駅徒歩4分、312㎡
参加者の募集方法	 住民基本台帳から無作為抽出し申込書を送付 無作為抽出の市民3千人(市の人口構成を考慮)と 19歳アンケート対象者(3千人)へ申込書を送付し、 アンケート調査の結果を同封。謝礼(1万円相当)あり。
会議の公正性の確保	 議論の手法やプロセスは市民自治推進会議が監視 ・事務局は市民自治推進室に置き、会議の運営は委託 ・ファシリテーターを確保
今後のスケジュール	 9月上旬参加依頼発送、10月上旬参加者決定 ・第7回会議において経過報告 ・実験のプロセスの進捗は札幌市公式HPで発信

議論の実施内容について(1回目:ミニ・パブリックス型)

【資料 2】
令和6年(2024年)8月7日 第6回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局 (市民自治推進室)

議論の目的と流れ

- ・無作為抽出の市民40人により議論を実施し、ファシリテーターが合意形成を支援
- ・参加者は、応募者の中から性別や年齢などのバランスを考慮して選定
- ・論点に関して投票(評価)を行い、結果を市の策案及び今後のさらなる議論に活用
- ・市政課題に関して一般市民が熟議する機会を得た場合の意識の変容を調査し、手法に関する評価も実施



参加者の性別・年齢構成例

(人)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70～	計
男性	1	2	3	3	3	3	3	18
女性	1	3	3	4	4	3	4	22
計	2	5	6	7	7	6	7	40

テーブル毎の年齢構成例

(人)	A	B	C	D	E	F	計
10～20代	2	1	1	1	1	1	7
30～40代	2	3	2	2	2	2	13
50代以上	3	3	4	4	3	3	20
計	7	7	7	7	6	6	40

議論の目的と流れ

- ・無作為抽出の市民40人により議論を実施し、ファシリテーターが合意形成を支援
- ・参加者は、応募者の中から性別や年齢などのバランスを考慮して選定
- ・年代毎の意見の把握を試みるとともに、論点に関して投票(評価)を行い、結果を市の策案及び今後のさらなる議論に活用
- ・市政課題に関して一般市民が年代毎に熟議する機会などを得た場合の意識の変容を調査し、手法に関する評価も実施



参加者の性別・年齢構成例(＝議論①)

(人)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70～	計
男性	3	3	3	3	3	2	3	20
女性	3	3	3	3	3	3	2	20
計	6	6	6	6	6	5	5	40

議論②の年齢構成例

(人)	A	B	C	D	E	F	計
10～20代	2	2	2	2	2	2	12
30～40代	2	2	2	2	2	2	12
50代以上	3	3	3	3	2	2	16
計	7	7	7	7	6	6	40

目的

- ・ 成人式のあり方の検討への結果の活用
- ・ 市民参加の仕組みづくり(サイレント・マジョリティの掘り起こしと参加者の意識の変化の検証)の検討への結果の活用

日時・場所

下記日程の9:30～17:00に札幌グランドホテル地下1階クリスタルホールで開催

- ・ 第1回 10月27日(日) ミニ・パブリックスの形式
- ・ 第2回 11月4日(月・祝) 年代毎の参加者数を一定にする形式

実施体制

主催 札幌市
協力 名古屋大学大学院 三上教授(予定)

参加者と抽出方法

各回18歳以上の札幌市民40人を予定(2段階で抽出)

- ・ 第1段階では、住民基本台帳を用いて3,000人を無作為抽出(抽出に当たっては、札幌市全体の縮図となるよう年齢・性別・居住区を割り当て)し、事前アンケート調査の対象となった19歳の市民3,000人と合わせて計6,000人に案内状を9月11日付で送付。
- ・ 第2段階では、第1回会議の参加者は札幌市全体の縮図となるよう、年代や性別、居住地域、職業などの属性の他、地域活動への関心度合や会議での議論に慣れているかを考慮して抽出予定。第2回会議の参加者は、10代から70代の各年代の参加者数を一定とし、その他の属性は第1回と同様の観点から抽出予定。

テーマと論点

市民へのアンケートや地域へのヒアリング結果を基に、会議テーマ、3つの論点、論点ごとに1～3個の問いを設定し、議論や投票に使用。

テーマ：成人式は今後どのような姿を目指していくのがよいか

論点	問い	項目
【論点1】 成人式の方針 (何を大事にするか)	Q1 重視すべき点 実施する上でどのような視点や考え方を特に重視すべきだと思いますか。(7段階で評価)	・厳粛な式・文化に触れる・出席率・満足度 ・懇親・地域社会から祝われる場の創出 ・主催者のやりがい・主催者の負担軽減 ・必要性(廃止・継続)・コスト・アクセス ・開催時期(冬・夏)・時間数(長・短)等
	Q2 実施主体 運営について誰が主体的に担っていくのがよいと思いますか。(1つを選択)	ア 地域が主体のまま イ 行政が主体となるのがよい ウ 新成人による実行委員会
	Q3 開催場所 どのような場所で開催されるのがよいと思いますか。(1つを選択)	ア 区ごとの開催のまま イ 1か所に集まって合同開催する ウ 2～3区が集まって合同で開催する
【論点3】 財源の確保 (誰が、どのように)	Q4 内容 どのような内容を特に重視すべきだと思いますか。(7段階で評価)	・来賓からの祝辞・記念撮影コーナー ・コンサートなどの催し ・元担任の先生からのお祝いのメッセージ ・記念品や抽選で当たるプレゼント ・参加者同士が会話を楽しめる場の設置等
	Q5 財源 財源を確保していくために、だれの、どのような取組が特に重要だと思いますか。重要だと思う順に、優先順位をつけてください。	・市の補助金 ・各地域が協賛金などの確保に取り組む ・市や各地域が寄付を募る ・企業自らが寄付を行う ・市民自らが寄付を行う
	Q6 補助金 市からの補助金の額は運営費全体のどの程度であるとよいと思いますか。(1つを選択)	・全額 ・運営費の8～9割 ・運営費の6～7割 ・運営費の4～5割 ・運営費の2～3割 ・1割以下 ※現状5～6割程度

情報提供の計画

議論に必要な情報をバランスよく提供するため、複数名の情報提供者によるレクチャーを予定。

	必要となる情報提供の要素	情報提供者の人选の考え方
Q1 重視すべき点	・歴史的背景 ・札幌市における成人式の実施状況 ・他自治体の状況 ・市民アンケートの結果	・札幌市担当者が基礎的情報を提供する
Q2 実施主体	・地域が主催する場合の利点と課題 ・行政が主催する場合の利点と課題 ・新成人による実行委員会の事例提供	・札幌市担当者に加えて、次の異なる観点から情報提供していただける方を招へいする - ア 地元開催にかけの思いのある地域の方 - イ 行政が開催すべきと考ええる地域の方
Q3 開催場所	・区ごとに開催する場合の利点と課題 ・合同開催をする場合の利点と課題 ・2～3区が集まって合同で開催する場合の利点と課題	・札幌市担当者に加えて、次の異なる観点から情報提供していただける方を招へいする - ア 地元開催にかけの思いのある地域の方 - イ 合同開催を望む地域の方
Q4 内容	・各区の式典の内容 ・他都市の状況	・札幌市担当者が基礎的情報を提供する
Q5 財源	・実施委員会の財政運営状況 ・札幌市の予算の考え方 ・札幌市の補助金の考え方	・札幌市担当者に加えて、実施委員会として予算確保に取り組んでいる地域の方を招へいする
Q6 補助金		

会議の進め方

メインファシリテーターが全体司会を務め、テーブルファシリテーターが各グループの議論を支援。

プログラム(案)

9:30-10:00	オリエンテーション、会議前アンケート調査(各論点への投票)
10:00-10:15	アイスブレイク(成人式の印象について)
10:15-11:00	情報提供(論点1～3について。各論点につき、10分の情報提供と5分のフリーストークを行う)
11:00-12:00	第1部 グループディスカッション
12:00-13:00	お昼休憩
13:00-14:00	第2部 グループディスカッション(※第2回目は、後半30分で各グループの意見を発表)
14:00-15:00	全体会議(市職員の他、地域で成人の日行事に携わっている方も10名程度参加し、質問に応答)
15:00-16:00	第3部 グループディスカッション(※第2回目は、このタイミングで各年代を混成して議論)
16:00-16:30	発表(各グループで出た意見)※グループとして合意形成が図られた場合はその旨発表
16:30-17:00	振り返り、会議後アンケート調査(各論点への投票)

37

会議の記録

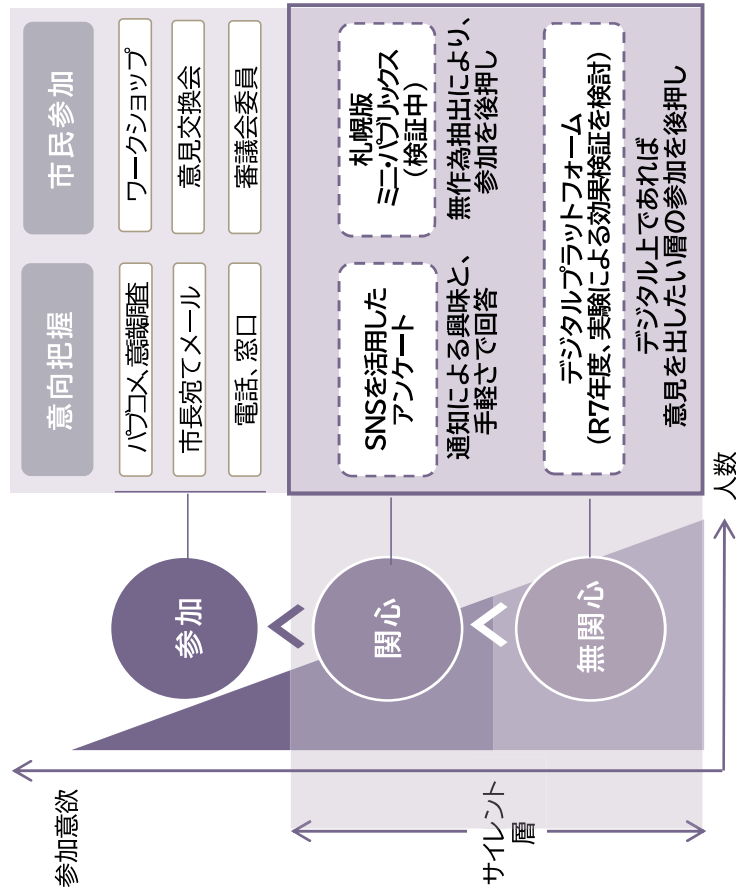
情報提供資料や会議全体の様子を記録した映像を市公式HP上で公開予定。

結果の公表と活用

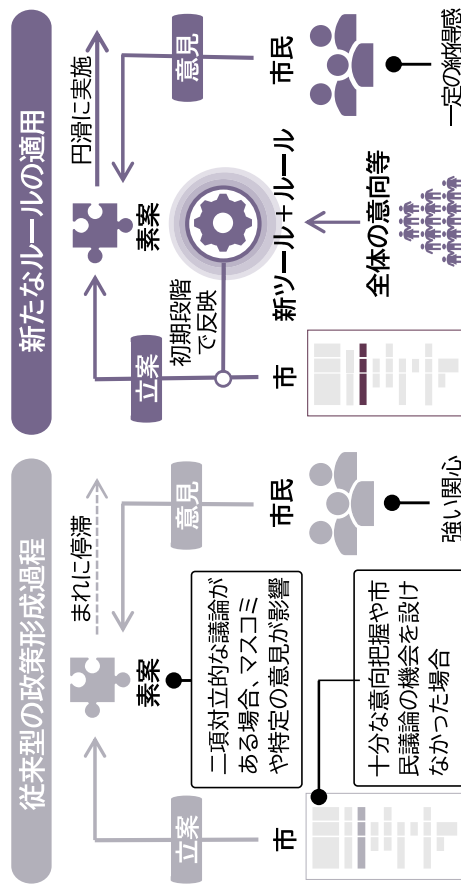
結果は報告書としてまとめ、公表するとともに、結果は市の今後の取組の検討や関係者とのさらなる議論に活用する。

- ・ 現在検証中である「新たな意向把握手法(新たなツール)」を導入するにあたり、実効性の担保を行う必要がある
- ・ SNSを活用した市民全体の意向の把握(サイレント・マジョリティを含む)やミニ・パブリックスの活用など、想定される新たなツールの特性を十分に生かした形でルールを検討

ツール全体のイメージ



新ルールの適用イメージ



- ・ 事案の内容に応じて、新たなツールを加えたさまざまな手法の組み合わせにより政策を形成していくことを基本とする。
- ・ ただし、「大きな市政課題の方針や施策を決定する場合、かつ、市民生活へ与える影響が大きい事案」については、市民全体の意向や市民議論を踏まえた上で、市長や議会の意思決定が下される必要があるもので、新たなツールの利用を原則とすることなどを検討。

- ・ 市役所内部の情報提供・市民参加のルールに、新たなツールの内容や背景、運用に当たっての考え方を加え、職員への浸透を図る
- ・ 市民と市役所がともに考え、市政課題の解決を図っていくためには、市民に求められる役割も明確化することが必要
- ・ ガイドライン作成により、行政運営の透明性の向上、市の方針や手続きを市民に理解してもらい協力を得やすくなる、職員の業務の効率化等が見込まれる

ガイドラインのイメージ

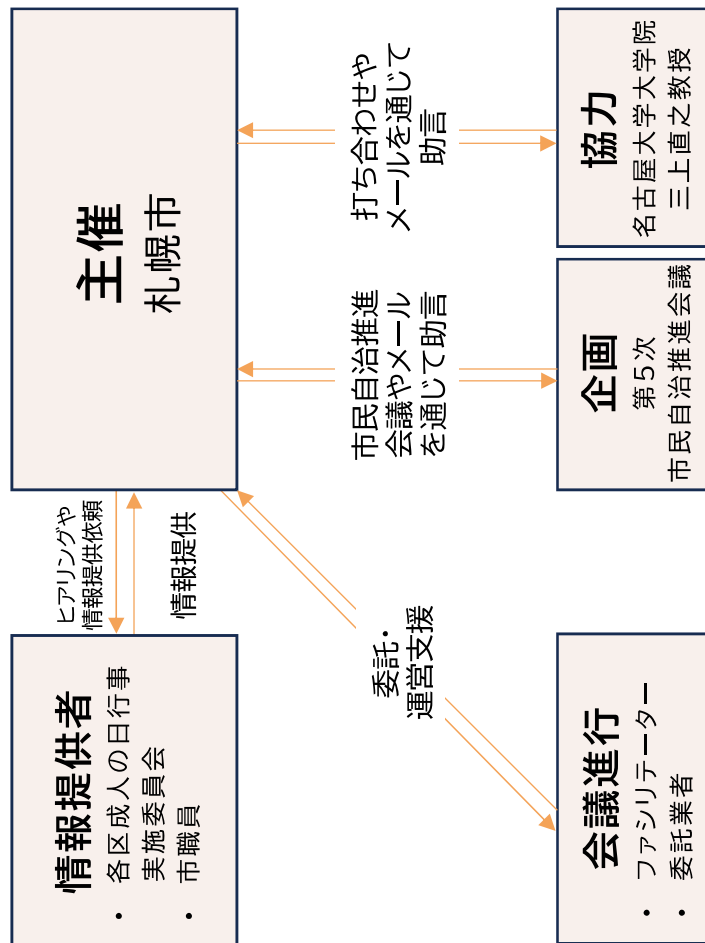
情報共有と市民参加の推進のための ガイドライン(仮)	第1章 情報共有、市民参加の目的	・ 情報共有、市民参加の目的、背景、必要性
	第2章 情報共有の推進	・ 実施時期、手法、情報提供のポイント
	第3章 市民参加の推進	・ 実施時期、手法、市民参加のポイント
	第4章 市民の役割	・ 情報収集の方法 ・ 意見の提出や参加の機会の活用 ・ 市民モニター制度(仮称・市民サポーターズ)への登録
	第5章 評価	・ ガイドラインの評価、見直し

1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果（概要）について | 開催概要

令和6年(2024年)12月3日 第8回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局（市民自治推進室）
【資料1-1】

- 第5次市民自治推進会議が企画した「未来の成人式を考える市民会議」を10月27日(日)、11月4日(月・祝)、札幌グランドホテル クリスタルホールで開催
- 同会議の目的は、①成人式のあり方の検討への結果の活用と②市民参加の仕組みづくり(サイレント・マジョリティの掘り起こしと参加者の意識の変化の検証)の検討への結果の活用
- 会議のテーマは「今後成人式はどのような姿を目指していくべきか」とし、3つの論点(「論点1 成人式の方針」、「論点2 実施主体、開催場所、内容」、「論点3 財源の確保」と各論点に関連する7つの問いを設定
- 無作為抽出で選ばれた市民が2日間で計82名参加し、事前送付された資料を読み、市職員や成人の日行事(成人式)の運営に携わる地域の方から成人式に関するさまざまな情報提供を受けたうえで、グループごとに議論し、アンケートに回答

【実施体制】



【10月27日 グループ討論の様子】

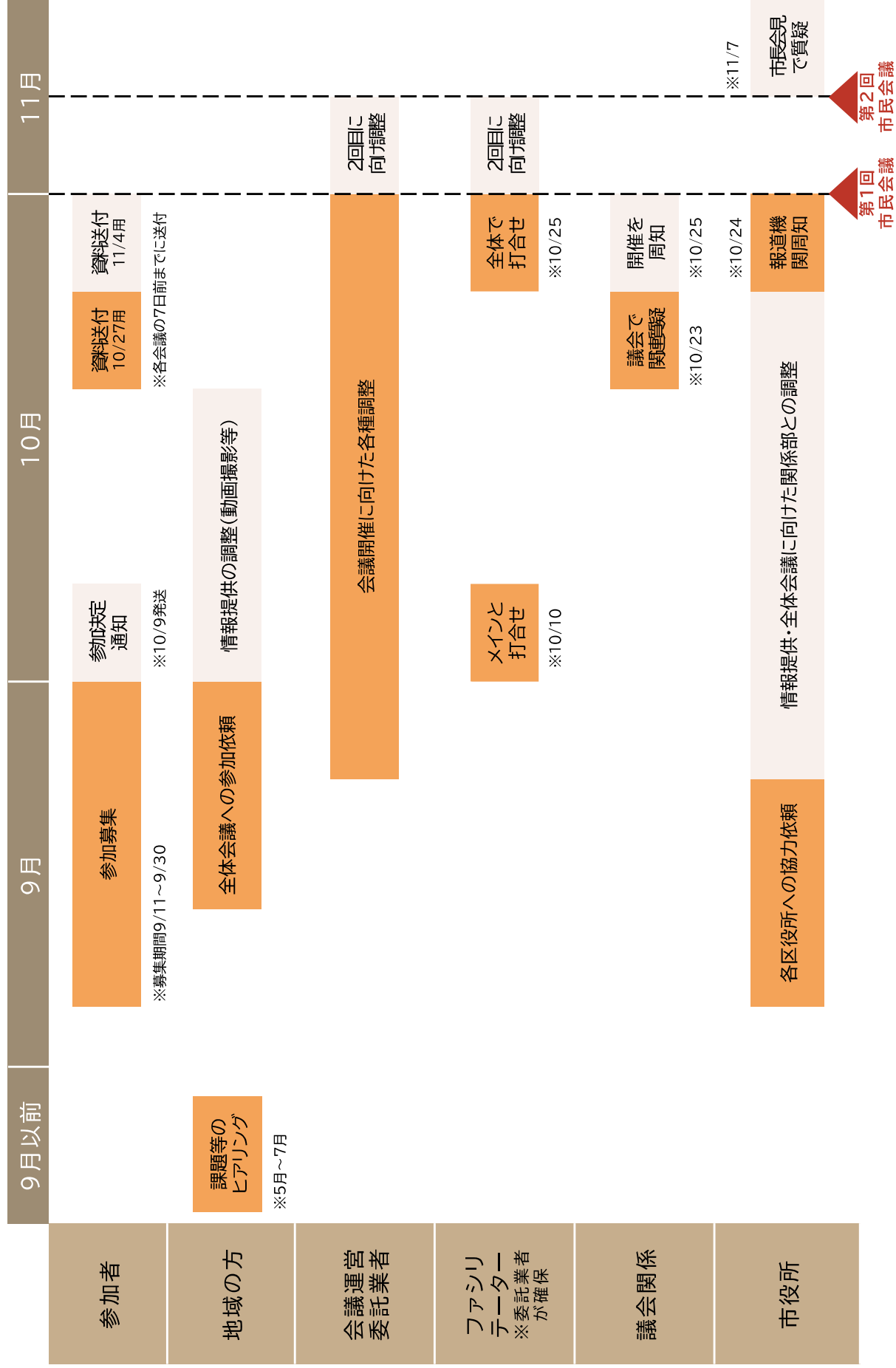


【11月24日 グループ討論の様子】



1.未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について | 開催までのスケジュール

- ・ 市民自治推進会議における企画の検討状況や決定内容を考慮しながら、下図のとおり各種調整を進めた



1.未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について | 申込者について①

- 5～6月に実施した19歳向けアンケートの対象者3,000人に加え、新たに18歳以上79歳以下の市民3,000人を無作為に抽出し、市民会議への参加案内、申込用紙、市民アンケート結果概要を郵送
- 募集期間は9月11日～9月30日までとし、紙かオンラインで申し込みを受け付けたところ、226名が参加を希望
- 申込者の特徴は、案内数に対して若い方からの申し込みが少なくこと※1、女性の割合が男性よりも高いことが挙げられる
- 職業別にみると、仕事が主な方※2が全体の4割、通学をしている方※3が3割を占めた

※1 10代、20代の申込者86名中19歳向けアンケートの対象者が71名 ※2 会社員・公務員、パート・アルバイト、自営業 ※3 大学生、専門学校生、短大生、高校生

【申込者の性別・年代・居住区別の構成】

	男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	申込者に 対する割合	市の人口に 対する割合	
年代	10代 ※18～19歳	17	19	36	15.9%	8.0% ※18～19歳は1.7%
	20代	19	31	50	22.1%	10.2%
	30代	7	9	16	7.1%	11.2%
	40代	12	20	32	14.2%	14.0%
	50代	16	17	33	14.6%	14.9%
	60代	8	18	26	11.5%	12.6%
	70代	19	14	33	14.6%	13.1%
居住区	中央区	15	17	32	14.2%	12.5%
	北区	14	12	26	11.5%	14.5%
	東区	14	14	28	12.4%	13.3%
	白石区	5	22	27	11.9%	10.9%
	厚別区	10	12	22	9.7%	6.3%
	豊平区	11	16	27	11.9%	11.6%
	清田区	7	8	15	6.6%	5.6%
	南区	8	5	13	5.8%	6.8%
	西区	4	15	19	8.4%	11.2%
	手稲区	10	7	17	7.5%	7.2%
男女計						
申込者に対する割合						
市の人口に対する割合						

※市の人口データはR6.7.1時点

【申込者の職業】

	10代 (人)	20代 (人)	30代 (人)	40代 (人)	50代 (人)	60代 (人)	70代 (人)	計 (人)	申込者に 対する割合
大学生	21	39						60	26.5%
会社員・ 公務員	3	6	7	17	19	4	2	58	25.7%
無職	1		2	2	1	7	16	29	12.8%
パート・ アルバイト	1		3	4	5	5	6	24	10.6%
主婦、主夫			1	5	3	9	5	23	10.2%
専門(専修) 学校生	5	4						9	4.0%
自営業			2	1	3			6	2.7%
短大生	5							5	2.2%
高校生		1						1	0.4%
その他				2	1		2	5	2.2%
無回答			1	1	1	1	2	6	2.7%
計	36	50	16	32	33	26	33	226	

1.未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について | 申込者について②

- 申込方法は紙とオンラインが約半数ずつであり、若い方はオンライン、高齢の方は紙を選択する傾向が見られた
- 申込理由は「市民会議に興味があるから」が約4割で最も多く、ワークショップへの参加経験は「経験がない」が約8割
- 地域活動への参加経験は、半数以上の方がある(「頻繁に」、「定期的に」、「たまに」、「過去参加したことがある」)と回答
- 地域への愛着は、8割以上の方がある(「とても愛着がある」、「やや愛着がある」と答えた

【申込者の申込方法、申込理由、ワークショップへの参加経験】

申込方法	10代 (人)	20代 (人)	30代 (人)	40代 (人)	50代 (人)	60代 (人)	70代 (人)	計 (人)	割合
紙	11	15	6	15	16	20	29	112	49.6%
オンライン	25	35	10	17	17	6	4	114	50.4%
申込理由									
市民会議に興味がある	8	15	6	13	19	11	14	86	38.1%
謝礼がある	11	9	2	1	4	2	3	32	14.2%
成人式に興味がある	5	7	1	6	4	3	2	28	12.4%
市の行事に参加したい	3	3	3	4	1	2	6	22	9.7%
周囲(家族等)の勧め	1	7	3		3	3	2	19	8.4%
知らない人と意見交換	7	4		3		2	1	17	7.5%
その他	1	5	1	5	2	2	5	21	9.3%
無回答						1			0.4%
WSへの参加経験									
ない	34	44	12	24	29	17	28	188	83.2%
ある	2	6	4	8	4	8	4	36	15.9%
無回答						1	1	2	0.9%

【申込者の地域活動への参加経験、地域への愛着】

地域活動	10代 (人)	20代 (人)	30代 (人)	40代 (人)	50代 (人)	60代 (人)	70代 (人)	計 (人)	割合
参加したことがない	24	25	6	20	13	9	7	104	46.0%
過去参加したことがある	9	17	5	7	13	5	15	71	31.4%
たまに(年1～2回)	1	5	3	2	4	9	5	29	12.8%
頻繁に(月1回以上)	1	1	1	2	1	2	3	11	4.9%
定期的に(2～3月に1回)		2			2	1	3	8	3.5%
無回答	1		1	1				3	1.3%
地域への愛着									
とても愛着がある	12	21	8	13	19	11	16	100	44.2%
やや愛着がある	18	25	4	14	11	11	10	93	41.2%
どちらでもない	5	2	4	4	3	4	7	29	12.8%
愛着がない	1	2		1				4	1.8%

1.未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について | 参加者について

- ・ 申込者の参加希望日、年代、性別、居住区のほか、辞退率(※2割想定)などを考慮し、100名(各回50名)を決定
- ・ 第1回は市の人口構成の縮図を作るミニ・パブリックス型、第2回は年代毎の人数を一定にするオリジナル型で実施
- ・ 当日は、各回41名の計82名が参加。第1回の60代の欠席が多かったが、そのほかの日程は概ね想定通りに来場

【第1回参加者の性別・年代別の構成】

年代	男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	割合
10代	1	1	2	4.9%
20代	2	3	5	12.2%
30代	3	3	6	14.6%
40代	4	4	8	19.5%
50代	4	4	8	19.5%
60代	3	1	4	9.8%
70代	4	4	8	19.5%
計	21	20	41	
参加者に 対する割合				51.2% 48.8%

【第2回参加者の性別・年代別の構成】

年代	男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	割合
10代	3	3	6	14.6%
20代	3	2	5	12.2%
30代	3	3	6	14.6%
40代	2	4	6	14.6%
50代	4	2	6	14.6%
60代	3	4	7	17.1%
70代	3	2	5	12.2%
計	21	20	41	
参加者に 対する割合				51.2% 48.8%

【参加者の職業】

	第1回(人)	第2回(人)	計(人)	割合
会社員・公務員	14	12	26	31.7%
パート・アルバイト	9	4	13	15.9%
無職	4	7	11	13.4%
大学生	2	7	9	11.0%
主婦、主夫	5	3	8	9.8%
自営業	2	3	5	6.1%
専門(専修)高校生	2	2	4	4.9%
短大生		1	1	1.2%
高校生	1		1	1.2%
その他	1	2	3	3.7%
無回答	1		1	1.2%
計	41	41	82	

【第1回参加者の居住区別の構成】

区	参加者(人)	割合
中央区	5	12.2%
北区	4	9.8%
東区	3	7.3%
白石区	5	12.2%
厚別区	3	7.3%
豊平区	5	12.2%
清田区	4	9.8%
南区	2	4.9%
西区	6	14.6%
手稲区	4	9.8%
計	41	

【第2回参加者の居住区別の構成】

区	参加者(人)	割合
中央区	5	12.2%
北区	3	7.3%
東区	2	4.9%
白石区	5	12.2%
厚別区	7	17.1%
豊平区	3	7.3%
清田区	4	9.8%
南区	5	12.2%
西区	2	4.9%
手稲区	5	12.2%
計	41	

【参加者の成人式への参加経験等】

	第1回(人)	第2回(人)	計(人)	割合
成人式への参加				
市外で参加	15	12	27	32.9%
市内で参加	12	13	25	30.5%
不参加	10	7	17	20.7%
これから	4	9	13	15.9%
WSへの参加経験				
ない	32	31	63	76.8%
ある	8	9	17	20.7%
無回答	1	1	2	2.4%
地域活動				
参加したことがない	13	17	30	36.6%
過去参加したことがある	17	10	27	32.9%
たまに(年1~2回)	7	5	12	14.6%
頻繁に(月1回以上)	1	6	7	8.5%
定期的に(2~3月に1回)	2	2	4	4.9%
無回答	1	1	2	2.4%
地域への愛着				
とても愛着がある	24	22	46	56.1%
やや愛着がある	10	15	25	30.5%
どちらでもない	6	4	10	12.2%
愛着がない	1	1	1	1.2%

1.未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について | 会議の流れ

- ・ 会議はメインファシリテーターの進行のもと、テーブルファシリテーターが各グループの議論を支援するかたちで実施
- ・ 第1回は年代の異なる7名程度が6グループに分かれて1日議論し、第2回は年代毎に6名程度ずつ7グループに分かれて第1部と第2部の議論を行った後、第3部でいろいろな年代の方を混ぜて議論
- ・ 情報提供は、各論点に沿って、札幌市と各区成人の日行事実委員会(地域の方)から、動画で成人式に関する基礎的な情報や現状、課題などについて説明
- ・ 全体会議は、市職員と地域の方も参加し、テーブルファシリテーターがまとめたグループごとの質問に回答
- ・ 参加者の意識の変容を調査するアンケート調査は、第1回は3回、第2回は4回実施(第2回は年代毎の議論の結果を調査するため、第2部グループ討論の後にも実施)

【第1回のプログラム】

9:30-10:00	調査①、オリエンテーション	
10:00-10:15	自己紹介	
10:15-11:00	情報提供 調査②	
11:00-12:00	第1部 グループ討論	
12:00-13:00	お昼休憩	
13:00-14:00	第2部 グループ討論	
14:00-15:00	全体会議	
15:00-16:00	第3部 グループ討論	
16:00-16:30	発表	
16:30-17:00	調査③、振り返り、結果の発表	
会議終了後	市民会議の運営に関するアンケート	

【第2回のプログラム】

9:30-9:50	調査①、オリエンテーション	
9:50-10:10	自己紹介	
10:15-11:05	情報提供	
11:05-12:00	調査②、第1部 グループ討論	
12:00-13:00	お昼休憩	
13:00-13:30	第2部 グループ討論	
13:30-13:50	発表(2部までの意見) 調査③	
13:50-14:05	休憩	
14:05-15:00	全体会議	
15:00-16:10	第3部 グループ討論(年代混成)	
16:10-16:30	発表	
16:30-17:00	調査④、振り返り、結果の発表	
会議終了後	市民会議の運営に関するアンケート	

【全体会議で出た質問】

(第1回)	
・	ボランティアの募集方法
・	各区の出席率の違い
・	法律上18歳で成人すること、成人式の対象者が20歳であることに関する考え
・	補助金を増やす余地
・	予算と支出の内訳、各区の工夫
(第2回)	
・	白石の会場がカナモトホールである理由
・	各区の出席率の違い、案内が届く時期
・	市としての成人式の意義の捉え方
・	ボランティアの募集方法と業務、予算の内訳
・	ボランティアに若い人が参入する予定
・	青少年育成委員の活動内容
・	各区の会場決定の考え方
・	小中学校区で開催する場合の予算
・	協賛金の集め方
・	札幌ドームの費用
・	法律上18歳で成人すること、成人式の対象者が20歳であることに関する考え

【情報共有資料を事前に読んだか】

- 参加者のうち7割は、事前に資料の内容を全部読んだ上で参加していた

Q. 本日の会議に参加するまでに、郵送で受け取った情報共有資料をご覧になりましたか。あてはまるものに○をつけてください。（数値は%）	
第1回	第2回
ア.読んでいない	0.0
イ.半分以下しか読んでいない、目を通した程度	7.3
ウ.半分程度は読んだ	12.2
エ.半分以上は読んだ	7.3
オ.全部読んだ	73.2
カ.全部読んだうえ、さらに興味を持った項目などについて調べた	0.0
無回答	0.0

【情報提供について】

- 資料や当日の情報提供の内容は理解できたと思う方が多かったが、バランスがよかったかは「どちらとも言えない」を選択する方が多かった

	第1回							第2回						
	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値
①事前送付資料により、会議の目的や内容を理解できた	2.4	2.4	17.1	48.8	29.3	0.0	4.0	0.0	0.0	7.3	53.7	39.0	0.0	4.3
②事前送付資料の内容はわかりやすかった	0.0	4.9	22.0	51.2	22.0	0.0	3.9	0.0	2.4	22.0	46.3	29.3	0.0	4.0
③情報提供では異なる観点から公平にバランスよく取り上げられていた	4.9	7.3	39.0	31.7	14.6	2.4	3.5	0.0	2.4	36.6	31.7	26.8	2.4	3.9
④論点1の札幌市の情報提供の話を理解できた	0.0	0.0	19.5	61.0	19.5	0.0	4.0	2.4	0.0	2.4	61.0	34.1	0.0	4.2
⑤論点2の札幌市の情報提供の話を理解できた	0.0	4.9	19.5	56.1	19.5	0.0	3.9	0.0	2.4	7.3	56.1	34.1	0.0	4.2
⑥論点3の札幌市の情報提供の話を理解できた	0.0	4.9	19.5	56.1	19.5	0.0	3.9	0.0	7.3	0.0	61.0	31.7	0.0	4.2
⑦地域の関係者の情報提供の話を理解できた	2.4	4.9	12.2	48.8	29.3	2.4	4.0	2.4	2.4	7.3	48.8	39.0	0.0	4.2

1. 未来の成人式を考える市市民会議の開催結果(概要)について | 会議の運営に関するアンケート結果①

【自身の考えをまとめるのに役立ったことについて】

- 「グループ討論」が非常に役に立ったと回答した方が最も多く、「市民会議全体」と答える方も多かった

Q. 今回の会議において、あなた自身の考えをまとめるにあたって、次の項目は役に立ちましたか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び○をつけてください。
1 全く役に立たない、2 役に立たない、3 どちらともいえない、4 役に立った、5 非常に役に立った、0 わからない・意見がない (平均値以外の数値は%)

	第1回							第2回						
	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値
①市民会議全体	0.0	2.4	14.6	53.7	29.3	0.0	4.1	0.0	0.0	7.3	34.1	58.5	0.0	4.5
②情報提供者からの説明	4.9	9.8	9.8	51.2	24.4	0.0	3.8	0.0	2.4	12.2	46.3	39.0	0.0	4.2
③グループ討論	2.4	0.0	12.2	39.0	46.3	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	34.1	65.9	0.0	4.7
④グループ討論以外でのほかの参加者との意見交換	0.0	0.0	24.4	46.3	29.3	0.0	4.0	0.0	2.4	12.2	41.5	41.5	2.4	4.3
⑤全体会議での質疑応答	7.3	14.6	31.7	24.4	22.0	0.0	3.4	0.0	0.0	12.2	56.1	31.7	0.0	4.2
⑥情報共有資料からの情報	0.0	4.9	24.4	48.8	22.0	0.0	3.9	0.0	0.0	9.8	48.8	41.5	0.0	4.3

【グループ討論について】

- テーブルファシリテーターが「全員が討論に参加できる機会を適切に作っていた」、「対立する意見を平等に扱っていた」と思う方が多かった

Q. グループ討論に関する次の項目について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び○をつけてください。
1 全くそう思わない、2 そうは思わない、3 どちらともいえない、4 そう思う、5 非常にそう思う、0 わからない・意見がない (平均値以外の数値は%)

	第1回							第2回						
	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値
※進行役とあるのは「テーブルファシリテーター」を指す														
①進行役は、発言しやすい雰囲気を作っていた	0.0	2.4	2.4	29.3	65.9	0.0	4.6	0.0	0.0	4.9	36.6	58.5	0.0	4.5
②進行役は、全員が討論に参加できる機会を適切に作っていた	0.0	4.9	2.4	22.0	70.7	0.0	4.6	0.0	0.0	2.4	39.0	58.5	0.0	4.6
③進行役は、賛成・反対対立する意見の両方を平等に扱っていた	2.4	0.0	2.4	29.3	65.9	0.0	4.6	0.0	2.4	0.0	31.7	65.9	0.0	4.6
④進行役は、適切に議論を整理していた	2.4	0.0	4.9	36.6	56.1	0.0	4.4	0.0	2.4	7.3	31.7	58.5	0.0	4.5
⑤私のグループの参加者は、討論にほぼ等しく参加した	0.0	14.6	4.9	29.3	51.2	0.0	4.2	0.0	0.0	4.9	41.5	53.7	0.0	4.5
⑥グループ討論では、論点の重要な側面を話し合うことができた	0.0	0.0	17.1	53.7	26.8	2.4	4.1	2.4	0.0	4.9	46.3	43.9	2.4	4.3
⑦グループ討論で他の参加者が話した事をほぼすべて理解できた	0.0	4.9	17.1	41.5	34.1	2.4	4.1	0.0	2.4	9.8	34.1	51.2	2.4	4.4
⑧グループ討論で自分の意見を述べる十分な機会があった	0.0	2.4	2.4	56.1	36.6	2.4	4.3	0.0	2.4	7.3	29.3	58.5	2.4	4.5
⑨他の参加者は、意見が違っても、私の発言を尊重してくれた	0.0	2.4	2.4	53.7	39.0	2.4	4.3	0.0	0.0	4.9	36.6	56.1	2.4	4.5
⑩議論を独断し、他の人が発言できないようにする人はいなかった	0.0	4.9	9.8	41.5	41.5	2.4	4.2	0.0	0.0	9.8	29.3	56.1	4.9	4.5
⑪私は、自分とは違う立場の人から多くを学んだ	0.0	2.4	9.8	41.5	43.9	2.4	4.3	0.0	2.4	0.0	29.3	65.9	2.4	4.6

1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果（概要）について | 会議の運営に関するアンケート結果②

【オリエンテーション、全体会議、発表、振り返りについて】

- 第1回は「4 そう思う」を付けた方が多く、第2回は他のグループの発表等で理解が深まった、学びがあったと強く思う方が多かった

Q. オリエンテーション、全体会議、発表、振り返りに関する次の項目について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び○をつけてください。
1 全くそう思わない、2 そうは思わない、3 どちらともいえない、4 そう思う、5 非常にそう思う、0 わからない・意見がない（平均値以外の数値は%）

	第1回							第2回						
	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値
①オリエンテーションにおいて、会議の目的を理解することができた	0.0	4.9	17.1	48.8	26.8	2.4	4.0	0.0	0.0	4.9	58.5	34.1	2.4	4.3
②全体進行役の進行はスムーズだった	0.0	12.2	12.2	48.8	24.4	2.4	3.9	0.0	2.4	22.0	39.0	34.1	2.4	4.1
③全体会議での全体進行役が発言しやすい雰囲気を作っていた	0.0	0.0	17.1	48.8	29.3	4.9	4.1	0.0	7.3	7.3	43.9	39.0	2.4	4.2
④全体会議での質疑応答のやり取りは、適切なものであった	2.4	12.2	17.1	41.5	24.4	2.4	3.8	0.0	0.0	19.5	41.5	36.6	2.4	4.2
⑤全体会議での他のグループの質疑応答などで理解が深まった	2.4	12.2	14.6	46.3	22.0	2.4	3.8	0.0	2.4	12.2	34.1	48.8	2.4	4.3
⑥各グループの発表の内容を理解することができた	0.0	4.9	9.8	63.4	19.5	2.4	4.0	0.0	2.4	7.3	39.0	48.8	2.4	4.4
⑦他のグループの発表内容を聴くことで、気づきや学びがあった	0.0	7.3	4.9	46.3	39.0	2.4	4.2	0.0	2.4	0.0	46.3	48.8	2.4	4.5
⑧振り返りの時間があったことで、今日の体験を整理できた	0.0	12.2	14.6	43.9	26.8	2.4	3.9	0.0	4.9	17.1	26.8	46.3	4.9	4.2
⑨投票結果について、気づきや学びがあった	0.0	12.2	14.6	46.3	24.4	2.4	3.9	0.0	0.0	14.6	41.5	41.5	2.4	4.3

【今回の会議に関する意見や感想】

- 両日とも、「成人式についてたくさんさんの気づきがあった」、「自分の言いたいことを発言できた」と思った方が多かった

Q. 今回の会議に関する次のような意見や感想に対して、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び○をつけてください。
1 全くそう思わない、2 そうは思わない、3 どちらともいえない、4 そう思う、5 非常にそう思う、0 わからない・意見がない（平均値以外の数値は%）

	第1回							第2回						
	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値	1	2	3	4	5	意見無し 無回答	平均値
①会議に参加して成人式についてたくさんさんの気づきがあった	0.0	0.0	9.8	39.0	46.3	4.9	4.4	0.0	0.0	2.4	34.1	63.4	0.0	4.6
②休憩時間は十分に確保されていた	0.0	4.9	4.9	48.8	36.6	4.9	4.2	2.4	7.3	9.8	39.0	41.5	0.0	4.1
③会議の間、ほとんどの時間で集中力を維持することができた	0.0	17.1	2.4	43.9	31.7	4.9	3.9	0.0	7.3	17.1	39.0	36.6	0.0	4.0
④自分の言いたいことを発言することができた	0.0	2.4	7.3	53.7	31.7	4.9	4.2	0.0	2.4	0.0	39.0	58.5	0.0	4.5
⑤市民会議が市民意見を市政に反映するための効果的な方法だと思う	7.3	4.9	17.1	39.0	26.8	4.9	3.8	0.0	0.0	7.3	41.5	51.2	0.0	4.4

1. 未来の成人式を考えるを考える市民会議の開催結果(概要)について | 会議の運営に関するアンケート結果③

【会議全般について】

Q. 次の項目について、あなたの考えに最も近いものを1つ選び○をつけてください。(平均値以外の数値は%)

	第1回							第2回						
	1 非常に 少ない	2	3 適切	4	5 非常に 多い	6 謝金は 不要	平均値 ※6除く	1 非常に 少ない	2	3 適切	4	5 非常に 多い	6 謝金は 不要	平均値 ※6除く
①謝金(10,000円)の金額についてのお考えを教えてください	2.4	7.3	61.0	14.6	9.8	4.9	3.2	0.0	7.3	82.9	2.4	0.0	7.3	2.9
②今回の会議の時間の長さについてのお考えを教えてください	とても 短かい	2	ちょうど よい	4	とても 長い	無回答	平均値	1 とても 短かい	2	3 よい	4	5 とても 長い	無回答	平均値
③あなたは普段市政に対して意見を言うことはありますか	0.0	2.4	36.6	41.5	14.6	4.9	3.7	0.0	9.8	43.9	43.9	2.4	0.0	3.4
④今回の会議をきっかけに、今後札幌が抱える課題の解決に向けて自分も意見を言うてみたいと思いますか	1 全く言っ たことが ない	2	どちらと もいえ ない	4	5 頻繁に 言っ てい る	無回答	平均値	1 全く言っ たことが ない	2	3 どちらと もいえ ない	4	5 頻繁に 言っ てい る	無回答	平均値
	56.1	29.3	4.9	4.9	0.0	4.9	1.6	53.7	17.1	19.5	9.8	0.0	0.0	1.9
⑤今回の会議の開催前と開催後で成人式に関するご自身の考えに変化はありましたか	1 言いたく ない	2	どちらと もいえ ない	4	5 ぜひ言っ てみたい	無回答	平均値	1 言いたく ない	2	3 どちらと もいえ ない	4	5 ぜひ言っ てみたい	無回答	平均値
	4.9	4.9	36.6	34.1	14.6	4.9	3.5	0.0	0.0	26.8	39.0	34.1	0.0	4.1
⑦今回の会議の満足度を教えてください	1 全くな かった	2	どちらと もいえ ない	4	5 大いに あった	無回答	平均値	1 全くな かった	2	3 どちらと もいえ ない	4	5 大いに あった	無回答	平均値
	2.4	7.3	7.3	53.7	24.4	4.9	3.9	2.4	4.9	9.8	41.5	41.5	0.0	4.1
⑧今回のような会議に参加する機会があれば、また参加したいと思いますか	1 全く満 足してい ない	2	どちらと もいえ ない	4	5 非常に 満足し てい る	無回答	平均値	1 全く満 足してい ない	2	3 どちらと もいえ ない	4	5 非常に 満足し てい る	無回答	平均値
	2.4	2.4	4.9	53.7	31.7	4.9	4.2	0.0	2.4	7.3	22.0	63.4	4.9	4.5
	1 もう参 加したく ない	2	どちらと もいえ ない	4	5 ぜひ参 加したい	無回答	平均値	1 もう参 加したく ない	2	3 どちらと もいえ ない	4	5 ぜひ参 加したい	無回答	平均値
	2.4	2.4	14.6	48.8	26.8	4.9	4.0	0.0	2.4	2.4	34.1	56.1	4.9	4.5
第1回														
第2回														
ア.会議全体														
イ.情報提供の説明														
⑥ ⑤でご自身の考えに変化があった、大いにあったと答えた方に伺います。ご自身の考えが変化した1番の要因は何だと思えますか	ウ.グループ討論													
	エ.討論外での意見交換													
	オ.全体会議での質疑応答													
	カ.情報共有資料からの情報													
	キ.特になし													
	無回答													

1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果（概要）について | 会議全般についてと参加者やファシリテーターの意見

【P10の「会議全般について」の回答の傾向】

- ・ 両日とも、「謝金（1万円）の額」は「適切」（5段階評価で3）と回答した方が最も多い（第1回は61.0%、第2回は82.9%）
- ・ 両日とも、「普段市政に対して全く意見を言ったことがない」と回答した方が最も多い（第1回は56.1%、第2回は53.7%）
- ・ 第2回は、「今回の会議をきっかけに、今後札幌が抱える課題の解決に向けて自分も意見を言ってみたい」と思った方（5段階評価で4～5）が73.1%（第1回は48.7%）
- ・ 両日とも、「今回の会議の開催前と開催後で成人式に関するご自身の考えに変化があった」と思った方（5段階評価で4～5）が8割程度（第1回は78.1%、第2回は83.0%）
- ・ 両日とも、「今回の会議に満足している」と思った方（5段階評価で4～5）が85.4%
- ・ 「今回のような会議があればまた参加したい」と思った方（5段階評価で4～5）は第1回は75.6%、第2回は90.2%

【参加者の自由意見から一部抜粋】

- ・ もっと同年代の意見も聞きたかった。（10代女性・第1回）
- ・ この市民会議の意見が札幌市に届くのか不安に思う。よりよい方向に進んでほしいと思いました。（20代女性・第1回）
- ・ この様な機会がなければ市民として考えることも意見することにもなかつたので良い機会になりました。（30代男性・第1回）
- ・ 何かよくわからない中で終わってしまいました。（60代男性・第1回）
- ・ 自分が来年参加する式についてどのような人が関わっているのかというように企画されているのかがよくわかった。他の年代の方との意見交換がためになった。（10代女性・第2回）
- ・ 様々な年代の意見を聞くことができて楽しかった。初回の討論が年代別だったので話しやすかった。（20代女性・第2回）

【ファシリテーターへのアンケート結果から一部抜粋（特に1日目と2日目を比較する意見を抽出）】

- ・ 2日目の1部と2部は同年代同士でディスカッションを行い、3部は各年代混合でディスカッションでしたが各年代の方々が相互に刺激し合えていたように思います。
- ・ 年代ごとでまとまった方が、スムーズに意見交換ができていたように思います。
- ・ 2つのグループを体験でき、意見交換することは意味があったと考えるが、長時間すぎて、疲労度も高かったような印象を受けた。また、自分の同じ意見を繰り返すことにもなり、2回目のグループ移動の効果はあまり感じられなかった。後半は各グループで出た意見をもとに、それぞれのグループの意見を出し合うほうがまとまりがよかったのではないかな。
- ・ せっかく2日目が年代別としていたのに、最後までグループ分けせずに進めても良かったのではないのでしょうか？

【論点1 成人式の必要性】

- 「継続した方がよい」という意見が増加

Q. 今後の札幌市の成人式の成人式について、2つの意見のうち、どちらの意見に近いですか。ちょうど中間を「4」としたとき、あなたの意見に最も近いものを1つご選択ください。1廃止した方がよい～7継続した方がよい（数値は平均値）

第1回

会議前	情報提供後	討論後
5.8	5.9(↑)	6.1(↑)

第2回

会議前	情報提供後	年代別討論後	混成討論後
6.0	6.0(→)	6.2(↑)	6.3(↑)

【論点1 重視すべき点】

- 「出席者の満足度」の重要度が最も高い。「コストの節約」は低い水準ながらも増加

Q. 成人式を実施する上でのどのような視点や考え方を特に重視するのが良いと思いますか。次の項目について、あなたが考える重要度を7段階の中から1つご選択ください。1重要度低～4普通～7重要度高（数値は平均値）

第1回	会議前	情報提供後	討論後	会議前後の差
出席者の満足度	5.4	5.9(↑)	6.1(↑)	+0.7
出席者の懇親の機会	5.0	5.7(↑)	5.9(↑)	+0.9
参加しやすい開催時期	5.3	5.5(↑)	5.7(↑)	+0.4
会場へのアクセスのしやすさ	5.2	5.8(↑)	5.6(↓)	+0.4
地域社会から祝われる場の創出	5.0	5.3(↑)	5.0(↓)	±0
コストの節約	4.2	5.0(↑)	4.7(↓)	+0.5
主催者の負担感	4.4	5.0(↑)	4.5(↓)	+0.1
出席率	4.4	4.8(↑)	4.3(↓)	-0.1
伝統文化に触れる機会	3.8	3.7(↓)	3.8(↑)	±0
厳粛な式にすること	3.4	3.4(→)	3.0(↓)	-0.4

第2回	会議前	情報提供後	年代別討論後	混成討論後	会議前後の差
出席者の満足度	6.2	6.2(→)	6.4(↑)	6.4(→)	+0.2
会場へのアクセスのしやすさ	5.8	6.0(↑)	5.8(↓)	6.0(↑)	+0.2
出席者の懇親の機会	5.3	5.6(↑)	5.8(↑)	5.8(→)	+0.5
参加しやすい開催時期	5.9	5.6(↓)	5.6(→)	5.7(↑)	-0.2
出席率	5.0	5.7(↑)	5.9(↑)	5.6(↓)	+0.6
地域社会から祝われる場の創出	4.7	4.8(↑)	5.0(↑)	4.9(↓)	+0.2
コストの節約	4.3	4.6(↑)	5.0(↑)	4.8(↓)	+0.5
主催者の負担感	4.6	4.7(↑)	4.4(↓)	4.6(↑)	±0
伝統文化に触れる機会	3.7	3.6(↓)	3.5(↓)	3.3(↓)	-0.4
厳粛な式にすること	3.3	3.3(→)	3.6(↑)	3.3(↓)	±0

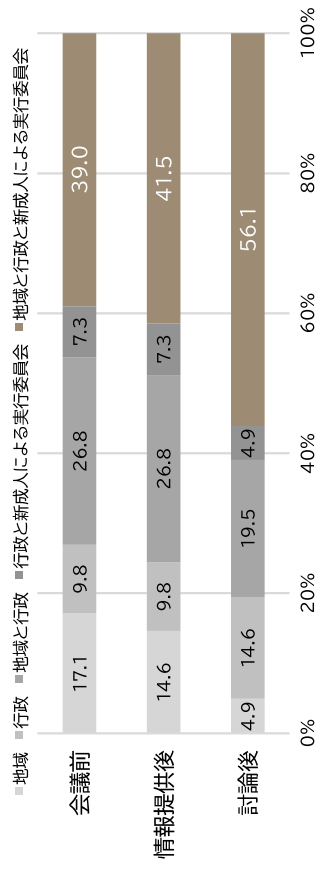
1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果（概要）について | 主な調査結果②

【論点2 実施主体】

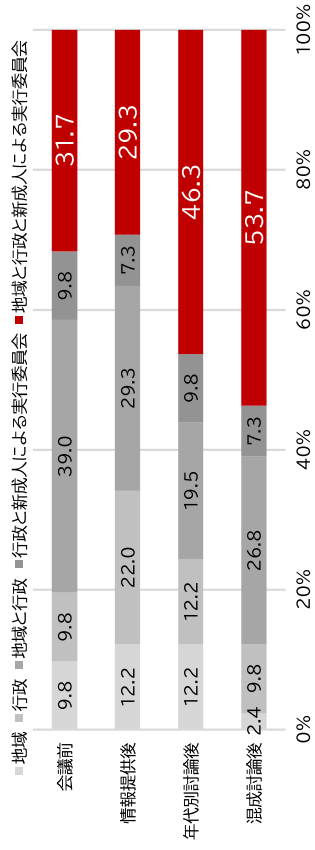
- ・「地域と行政と新成人による実行委員会」という意見が大幅に増加し、「地域」「地域と行政」は減少

Q. 成人式の運営について誰が主体的に担っていくのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つご選択ください。

第1回



第2回

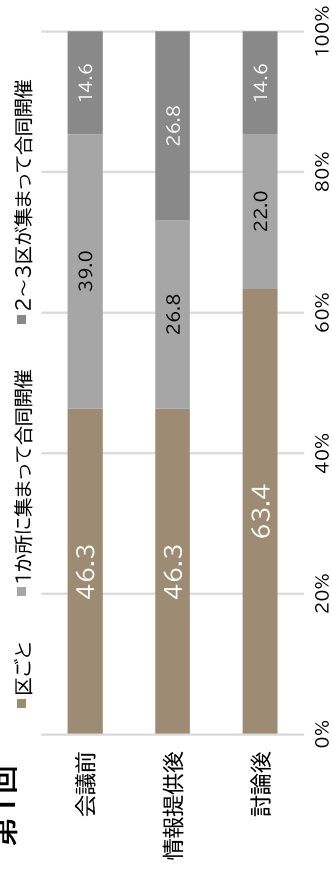


【論点2 開催場所】

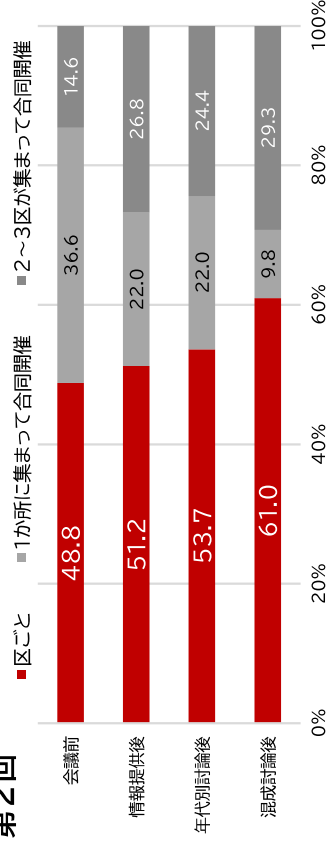
- ・「区ごと」という意見が大幅に増加し、「1か所に集まって合同開催」は減少

Q. 成人式はどのような場所で開催されるのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つご選択ください。

第1回



第2回



1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果（概要）について | 主な調査結果③

【論点2 内容】

- ・「参加者同士が会話を楽しめる場の設置」を重視する意見が最も多い。「元担任の先生からのお祝いのメッセージ」が大幅に増加

Q. 成人式について、どのような内容を特に重視するのがよいと思いますか。次の成人式で実施されている内容について、あなたが考える重要度を7段階の中から1つご選択ください。1重要度低～4普通～7重要度高（数値は平均値）

第1回	会議前	情報提供後	議論後	会議前後の差
参加者同士が会話を楽しめる場の設置	5.8	5.5(↓)	6.0(↑)	+0.2
記念撮影コーナー	4.4	4.7(↑)	5.0(↑)	+0.6
元担任の先生からのお祝いのメッセージ	3.9	4.6(↑)	4.9(↑)	+1.0
コンサートなどの催し	4.4	4.1(↓)	4.6(↑)	+0.2
記念品や抽選であたるプレゼント	4.5	3.8(↓)	4.3(↑)	-0.2
来賓からの祝辞	2.9	2.8(↓)	2.2(↓)	-0.7

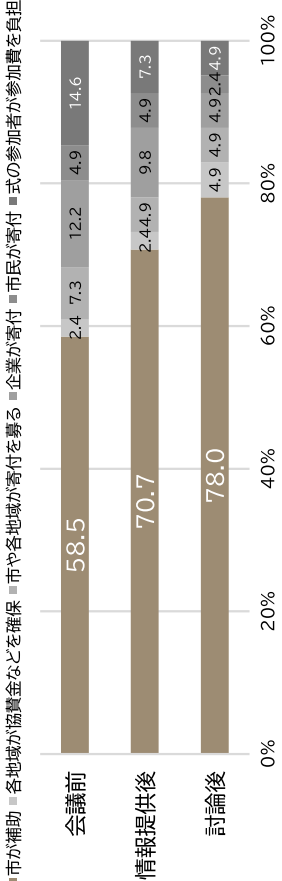
第2回	会議前	情報提供後	年代別議論後	混成議論後	会議前後の差
参加者同士が会話を楽しめる場の設置	5.8	6.0(↑)	6.1(↑)	6.0(↓)	+0.2
記念撮影コーナー	5.0	5.2(↑)	5.2(→)	5.3(↑)	+0.3
元担任の先生からのお祝いのメッセージ	4.3	5.0(↑)	5.0(→)	5.0(→)	+0.7
コンサートなどの催し	5.0	4.5(↓)	4.4(↓)	4.6(↑)	-0.4
記念品や抽選であたるプレゼント	4.7	3.8(↓)	4.3(↑)	4.2(↓)	-0.5
来賓からの祝辞	3.0	2.9(↓)	3.0(→)	3.0(→)	±0.0

【論点3 財源】

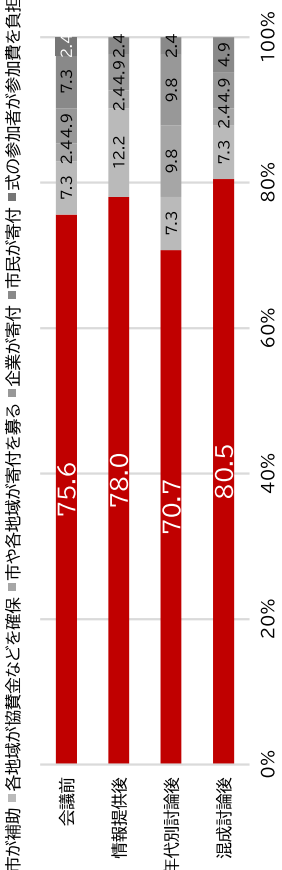
- ・「市が補助する」を重視する意見が最も多く、会議を通じて増加

Q. 成人式を実施するための財源を確保していくために、誰の、どのような取組が特に重要だと思いますか。重要だと思う順に優先順位を1～6でご選択ください。（優先順位1位の結果のみ掲載）

第1回（優先順位1位）



第2回（優先順位1位）

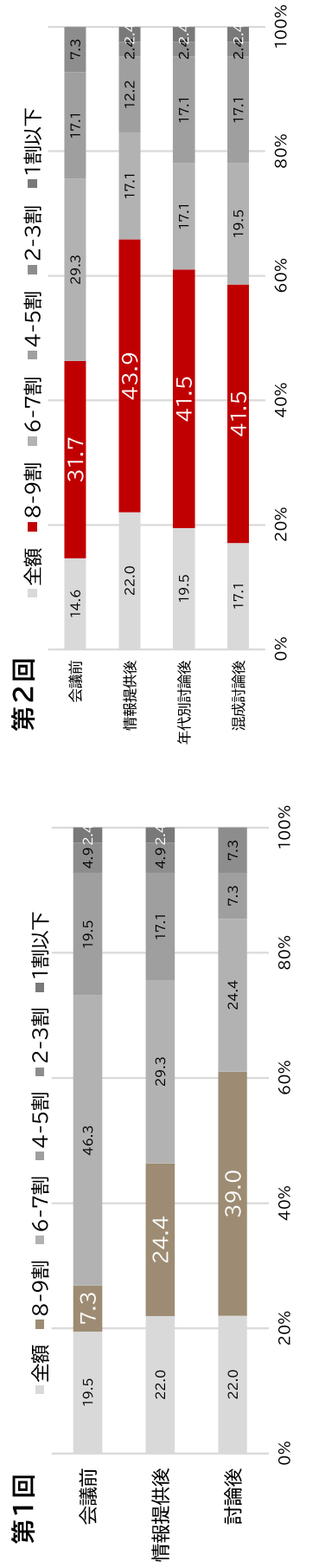


1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について | 主な調査結果④

【論点3 補助金】

- ・「8～9割」という意見が増加し、「6～7割」という意見は減少

Q. 地域に対する市からの補助金の額は運営費全体のどの程度であると思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つご選択ください。



【あなたが考える理想の成人式(自由記載)一部抜粋】※各回の最後の調査に自由記載欄を用意

- ・今のままで良い。(第1回)
- ・大がかりなことはいらない。自分の晴れ姿を親に見せて感謝を伝える、友人と再会する、地元に戻るきっかけとなる一つのイベントであり、式の内容自体にこだわりのない。(第1回)
- ・会えていない友人とたくさん会えるように広い場所の提供と、堅苦しくなくて今後に活きる分かりやすい話をしてくれればいい。(第1回)
- ・成人式にこだわる必要はないのでは？(第1回)
- ・行政が準備するのは最低限の必要十分なプログラムでよく、特別な催しやイベントとは18-22歳くらいの当事者のアイディアをベースに協賛や寄付を組み合わせて実現を目指す方式がいいと思う。(第2回)
- ・温かみのある思い出に残るような式。(第2回)
- ・未来の自分を考えるきっかけになったり自分が社会にどう貢献できるか考える機会や、従来通り友達と会える機会としては素晴らしい機会になると思うのでその辺りは継続してほしい。(第2回)

市民会議の運営に関するまとめ

○サイレント・マジョリティの市政参加を促すことにつながった

- ・「普段市政に対して全く意見を言ったことがない」方が半数以上参加し、会議後に「同じような会議にまた参加したい」と感じた方が多数いたことに加え、第2回では「会議をきっかけに今後市政課題の解決のために意見を言ってみよう」と7割の方が回答したことから、サイレント・マジョリティの掘り起こしにつながったと考えられる。

○会議への参加を通じて参加者の意見が変容したことが確認された

- ・アンケート調査の結果から、情報提供やグループ討論を通じて、様々な説明や自分と異なる意見に耳を傾けることで、個人の意見が変容したことが確認された。また、一般市民が、さまざまな情報提供をもとに熟慮し、考えを変化させる中で最終的に選択した結果として、実際の施策にも生かすことのできる貴重な意見を収集できた。

各論点に関するまとめと市の現状の考え

○（論点1 方針）今後も継続し、いかに参加しやすく、満足してもらえる式にするかが重要

- ・成人式は必要であるという意見が多く、重視すべき点としては、出席者の満足度、出席者の懇親の機会、会場へのアクセスのしやすさ、出席しやすい開催時期という選択肢が上位を占めた。このことから、いかに参加しやすく、満足してもらえる式にするかが重要。

○（論点2 主体等）新成人に企画などに企画してもらい、意見を取り入れる仕組みの構築が必要

- ・実施主体、開催場所、内容に関する各回答を統合すると、地域と行政と新成人による実行委員会が主体となり、区ごとに開催され、参加者同士が会話を楽しみ、記念撮影をすることができるようになった。論点1の結果にも関連するが、参加者目線で企画などに企画してもらい、意見を取り入れる仕組みの構築が必要と考えられる。

○（論点3 財源）市が寄付金の活用なども視野に入れながら、財源の確保に向けた手法を検討

- ・財源の確保については、市が補助し、割合を現状より高めるのがよいとする意見が多かった。市として、現在試行実施しているクラウドファンディングなど、寄付金の活用なども視野に入れた財源の確保に向けた手法を検討していく。

- 5～6月に行った成人式に関する1回目アンケートの追加調査として、2回目の調査を実施
- 1回目アンケートの設問において、成人式のあり方について「札幌市と市民が議論した結果」及び「アンケート結果」の両方を知りたいと回答した方が、全体の57.9%(N=557)※アンケートの回答率は18.6%
- これまでの検討のプロセスや、市民アンケートと市民会議の結果をご覧いただいたうえで、再度アンケートへの回答を依頼し、その結果も含めて成人式のあり方の検討や市民参加の仕組みづくりの検討にも活用する

1.目的

- ① 成人式のあり方の検討に活用
- ② 市民参加の仕組みづくりの検討に活用
- サイレント・マジョリティの掘り起こし(なぜアンケートに回答しよ
うと思ったか、1回目アンケートに回答しなかった方はなぜ今回は
回答しようと思ったかの要因を確認する)
- 市民会議結果の周知と効果の検証(「市民会議結果」の情報の有無
による回答内容の差を確認する)

2.対象

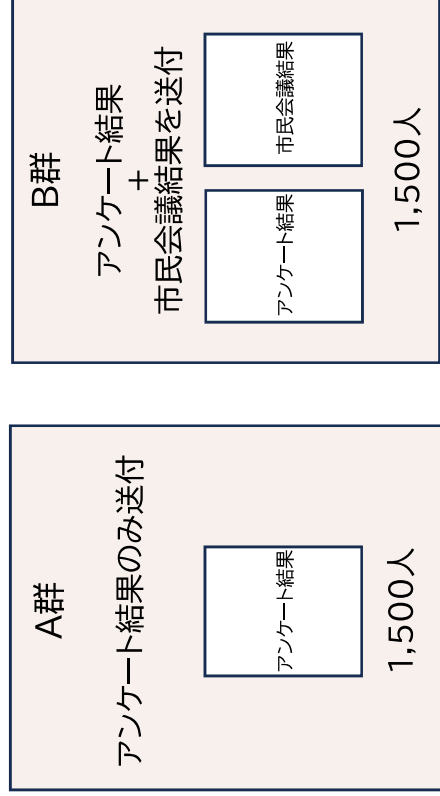
5～6月に実施した1回目アンケートの19歳の調査対象者3,000人
※令和7年1月開催の成人式の対象者

3.実施期間

12月下旬～1月上旬
※回答期限を成人式(令和7年1月12日)の前までに設定

4.調査方法

- 下記のとおり、A群とB群に分けて調査票を郵送し、結果を踏
まえた上で、調査票(紙)またはWEBフォームにより回答してもらう。
- 1回目アンケート調査の質問内容をベースとし、「1回目のアンケー
トに回答していない方が、なぜ今回のアンケートに回答しようと
思ったか」の設問を追加し、1回目からの意識の変化を確認。
- 「回答するにあたり、市民会議結果またはアンケート結果が参考に
なったか」の設問を追加し、結果を周知することの効果を確認する。



I. ガイドラインについて	○背景、目的、位置づけ 札幌市自治基本条例に基づき、市民参加の機会を確保するとともに、必要な情報共有を行うことにより、社会経済情勢の大きな変化の中において、市民とともに考え、話し合い、暮らしやすいまちを実現していくための指針であることを記載。
II. 情報共有の推進	○情報共有の推進にあたって 情報共有の必要性、提供時期と内容、情報提供のポイントなどを記載。 ○具体的な情報提供方法など 情報提供手法の例と特徴、留意点(個人情報保護の観点含む)などを記載。
III. 市民参加の推進	○市民参加の推進にあたって 市民参加の必要性、実施時期、出された意見への対応方法、市民参加の取組状況の公表などを記載。 ○政策の立案、実施、評価等の各段階における市民参加 市民参加の実施について、<u>具体的なルール</u>(対象事業と手法の選定方法、実施のタイミング等)やフォロー、留意点などを記載。
IV. 市民と行政の役割	○市民の役割 まちづくりに参加していただくために、具体的な意見の提出方法や参加の機会の情報収集の方法、<u>市民モニター制度</u>(仮称・市民サポーターズ)への登録などを記載。 ○行政の役割 情報共有と市民参加の推進(上記Ⅱ・Ⅲ)、市民同士がまちづくりについて議論し考えを深めた上で意見を出すことができる環境づくり(札幌版ミニ・パブリックスの実践と研究、デジタルプラットフォームの活用、市政課題を題材に市民がファシリテーション技術を学べるワークショップの企画など)に努めることなどを記載。
V. 評価	○評価、見直し 情報共有と市民参加の推進のための指標に基づく達成度の評価(市民参加の取組状況に関する客観的な指標を新たに設定することなどを検討)、ガイドラインの定期的な見直し・改善の時期、市民や職員からのフィードバックの収集などを記載。